

「日本の伝統・文化」 指導書



東京都教育委員会

指導書について

本書は、東京都立学校で実施する学校設定教科・科目「日本の伝統・文化」の教材集のための指導書です。

構成は、次のようになっています。

単元名

指導内容との関連

※『日本の伝統・文化』カリキュラム」の8・9ページに記載した「指導内容」との関連を示しました。

カリキュラム 単元例

※『日本の伝統・文化』カリキュラム」の34ページから87ページに記載した「単元例」との関連を示しました。

1 指導のねらい

2 身に付けさせたい力

3 教材の特質

4 事前指導や準備の工夫

5 展開例

6 評価規準

※具体的な評価規準の欄の下にその割合を記しました。

7 指導計画と指導のポイント

※特に重視したい指導内容については、指導のポイントとして○印を付けて記しました。

8 事後指導の工夫

※日本の伝統・文化理解教育の推進が一層図られるような工夫について記しました。

学校設定教科・科目「日本の伝統・文化」の目標は、国際社会に生きる日本人としての自覚と誇りを養うとともに、多様な文化を尊重できる態度や資質をはぐくむことにあります。

指導に当たっては、この目標を踏まえるとともに、各教科、特別活動及び総合的な学習の時間との関連及び違いを明確にすることが重要です。

本教科・科目が地域や学校、生徒の実態に応じて、特色ある教育課程の編成に資するものとなるよう、各学校がこの指導書を御活用いただき、創意工夫を生かした教育活動を実施していただくことを願っています。

目 次

〔基本的な単元〕

1	色、形、文様 ー風呂敷に学ぶ（1）ー	1
2	折る、包む、結ぶ ー風呂敷に学ぶ（2）ー	3
3	いろいろな文字を読んでみよう	5
4	日本の遊び	7
5	箸と椀	9
6	日本の住まい	11
7	文化としての日本の音	13
8	江戸・東京を歩く	15
9	和の響きを聴く	17
10	祭りの魅力	19

〔体験・創出的な単元〕

11	アニメ絵巻をつくる ー鳥獣戯画、北斎漫画からアニメへー	21
12	モダン都市東京の生活文化	23
13	身の回りの情報・メディア	25
14	出版文化の誕生を探る	27
15	儀式における音・音楽	29

16	世代をつなぐ日本のうた	31
17	大相撲と現代生活	33
18	着付け・和装	35
19	「道」に学ぶ ー華道・茶道ー	37
20	道具と工具	39
21	生活に生き続ける江戸の文化	41
22	武道に学ぶ	43
23	将棋に学ぶ	45
24	囲碁に学ぶ	47

【新たな文化の単元】

25	事件・情報とメディア	49
26	現代の芸術にみる日本の伝統・文化	51
27	折り鶴を折る ー野口宇宙飛行士による「宇宙鶴」プロジェクトー	53
28	和からジャパンプランドの創出	55
29	日本的な感性を味わおう ー手作り和楽器に挑戦！ー	57
30	ダンスと和楽器による総合的表現	59
31	ジャパンプार्टィーの企画演出	61

〔基本的な単元〕

〈単元1〉 色、形、文様 ー風呂敷に学ぶ(1) ー

指導内容との関連 (1) ー①

カリキュラム 単元例 <13>

1 指導のねらい

- (1) 日本の伝統的な色、形、柄について、歴史的・文化的な視点から学び、普段何気なくみていた日本についての理解を深める。
- (2) 日本の伝統的な色、形、柄のもつ効果や美しさを生かした、創造的なデザインを行う。
- (3) 日常生活において、日本の伝統・文化が切り離せないものであることに気付き、日本特有の様式美について誇りをもつ。

2 身に付けさせたい力

○古い技術に学びながら、新しい時代の文化の発展や創造に貢献しようとする力

3 教材の特質

現代生活でも使われている「風呂敷」や「手ぬぐい」を例に、日本の伝統的な色、形、柄の歴史や、文学、用途について幅広く取り上げ、身近な素材から日本の伝統・文化を理解できるようにしている。

4 事前指導や準備の工夫

- 風呂敷や手ぬぐいなどを用意させる。
- 伝統や文化に対する興味・関心をもつことができる素材を日ごろから収集しておいたり、教員の専門分野や趣味等を生かしたりするなど、教職員が積極的に携わる。


5 展開例

- (1) 色、形、柄のうちからテーマを選び、生徒の課題研究に発展させる。
- (2) 風呂敷や手ぬぐいに留まらず、「のれん」や現代の包装紙等についても同様に取り上げ、現代生活とのかかわりを重視した資料作り、指導体制を工夫する。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
伝統的な色、形、柄の面白さや「使う」日用品としてのよさに気付き、進んで創作に取り組もうとしている。	日本特有の美意識や技について認識し、工夫して表現、創作に取り組んでいる。	風呂敷の性質や特徴を理解し、それらを生かした、新しい風呂敷のデザインを紹介している。	様々な観点から伝統・文化について興味をもち、そのよさを感じとっている。
20%	20%	20%	40%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導の留意点◆
導入・知る (2時間)	<p>(1) 日本古来の伝統的な色、形、柄について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風呂敷や手ぬぐいの色、形、柄 ・和歌、物語に取り上げられた色 ・「べに」→「べにばな」など植物(草木、花、根)から色の名前の成り立ちとそれらの原材料について ・歴史上、貴ばれてきた色、また役割を果たしてきた色、柄 	<p>○各教科の指導内容との関連で、日本古来の色や柄について取り上げるようにする。</p> <p>○実際にそれらの色や形がどのように日常生活に使われているか気付かせる。</p> <p>◆風呂敷や手ぬぐいなどを実際に見ながら、学習させる。</p>
展開 (2時間)	<p>(2) コンピュータを使って、色をつくる。</p> <p>(3) つくった色で、風呂敷のデザインを作る。</p> <p>(4) その色についての説明文(歴史上の扱われ方、顔料や染料についてなど)を調べる。</p> 	<p>○パソコン教室を活用する。</p> <p>○「四季」や「行事」をテーマにするなど、より身近に発想できる指導の工夫を図る。</p> <p>○実際に使うことのできるものを考えさせる。</p> <p>○時間があれば、柄にも工夫させる。</p>
まとめ (1時間)	<p>(5) 評価カードを用い、自他のデザインした風呂敷のよい点を鑑賞し合う。</p>	<p>○生徒による自己評価、他者評価からよい点を見付け出しまとめる。</p> <p>○作品の活用法を考えさせる。</p>

8 事後指導の工夫

○季節や年中行事、地域特有のものにかかわる色、形、柄を学校行事の中で活用できるよう工夫する。

<単元2> 折る、包む、結ぶ —風呂敷に学ぶ(2)—

指導内容との関連 (1) -①

カリキュラム 単元例 <14>

1 指導のねらい

- (1) 日本の「おる、つつむ、結ぶ」文化について興味をもち、その由来や特質について学び、日本人の感性の豊かさに気付く。
- (2) 折形をおる、風呂敷を結ぶなどの体験を通して理解を深める。
- (3) 日常生活に息づく日本の伝統・文化に気付き、日本特有の様式美やそこに込められた心について誇りをもつようにする。

2 身に付けさせたい力

○古い技術に学びながら、新しい時代の文化の発展や創造に貢献しようとする力

3 教材の特質

風呂敷や熨斗(のし)包みなどを例として取り上げているため、「色、形、柄」の後に学ばせたり、同時に学ばせたりすることができる。特にこの単元では、日本独自の行為について取り上げている。儀式、年中行事などの礼節もおろまぜ、また普段の生活にも生かせる工夫をしている。

4 事前指導、準備の工夫

- 実際に体験できる学習にするための教具の準備をしっかりと行う。
- 教職員を含め、保護者、地域の人々の経験談などを事前に調べておく。


5 展開例

様々な「おる、つつむ、結ぶ」ものについて、生徒の課題研究に発展させる。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
風呂敷や熨斗袋の特性に気付き、積極的に体験しようとしている。	様々な使い方を自分なりに工夫して試している。	互いの使い方の工夫に気付き、そのよさを伝え合っている。	「おる、つつむ、結ぶ」にあらわれた日本独自の文化に興味をもっている。
30%	20%	20%	30%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導の留意点◆
知る (1時間)	(1) 学習に興味をもつ。 (2) 日本の伝統的な「おる、つつむ、結ぶ」という行為について学ぶ。	○風呂敷や熨斗包みを例に挙げる。 ○礼儀や日本人の感性についての指導も工夫する。
体験する (1時間)	(3) 「おる、つつむ、結ぶ」を体験する。 ①風呂敷 様々な折り方、つつみ方、結び方と作法について学ぶ。 ②折り紙 (熨斗包みを含む。) ③結び 紐やリボン等を使って、結び方を学ぶ。 	○色と形と柄と用途がかかわりあっていることに気付かせる。 ○文化が日常に確実に根付いていることや秀逸性について取り上げる。 ◆年中行事や、冠婚葬祭など、日常と非日常における「おる、つつむ、結ぶ」という行為を取り上げ、より身近に経験するものであることに気付かせる工夫をする。
提案する (2時間)	(4) 新しい使い方を提案する。 (5) 日本文化の機能美について考え、意見を交換する。	○発展的に、袱紗 (ふくさ) や着物などにもふれるようにする。

8 事後指導の工夫

○家庭に持ち帰って、家族と、風呂敷や熨斗包みの由来や意味について話す。また、現代におけるそれらの使われ方について、家族の経験等を聞く。

＜単元3＞ いろいろな文字を読んでみよう

指導内容との関連 (1) -②

カリキュラム 単元例 <21>

1 指導のねらい

- (1) 近代以前の日本における文字の多様性について知る。
- (2) 特に仮名文字について、一つの文字が数種類の字母（基になる字型）をもっていたことを学び、簡単な古典作品などによって、くずし字を読む能力を身に付ける。
- (3) 江戸後期の見立て絵本や歌舞伎の資料などから、文字のデザイン性や文字に対する豊かな感覚を味わう。また、現代に残る文字の多様性についても学ぶ。

2 身に付けさせたい力

- 日本人の文字に関する豊かな感覚を認識する力
- 古い文化財を正しく取り扱う力

3 教材の特質

- (1) 国語の教材に対する多様な視点を獲得することができる。
- (2) 文化の継続性に対する認識を獲得することができる。

4 事前指導、準備の工夫

- 貴重な資料を扱う際のマナーについて確認しておく。
- 可能な限り現物の資料を用意しておく。

5 展開例

国語、日本史などの教科と双方向的に学習を展開する。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
現在とは異なる文字の姿に関心をもち、進んで文字にかかわろうとしている。	文字の多様性やデザイン性を感じ取り、自分の表現の工夫に生かしている。	くずし字を読んだり書いたりするとともに、そうした字を用いて俳句などをつくって発表している。	自分たちの回りに伝統的な文字が残っていることに気づき、文字の意匠の面白さを理解している。
20%	20%	20%	40%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導上の留意点◆
知る (2時間)	<p>(1) 学習の流れと課題を理解する。</p> <p>(2) 文字の多様性とデザイン性を理解する。</p> <p>①図録・コピー等を通じて様々な古典作品に触れる。</p> <p>・江戸後期の戯作 ・見立て絵本 ・歌舞伎資料 など</p> <p>②資料を基に、文字そのものの多様性とデザイン性を知る。</p>	<p>○安い和綴り本や、複製本のコピーなどを適切な数量準備する。</p> <p>◆資料の性格や内容について説明する。</p> <p>○江戸に関係のある出版物や、文字遊びの資料を準備する。</p> <p>◆文字に興味をもたせるための、資料の内容に工夫する。</p>
読む・書く (2時間)	<p>(3) 国語で学習した古典作品をくずし字で読み、文字の多様性を体感する。</p> <p>・『伊勢物語』 ・『源氏物語』 など</p> <p>(4) くずし字を書き、俳句など短詩型のものをつくり、発表する。</p>	<p>◆正確なくずし方を身に付けるよりも、視覚的な学習を重視する。</p> <p>○既習の教材に限らず、生徒が興味をもてる内容を選択する。</p> <p>○資料を読むときには、郷土史家や大学の教員などゲストティーチャーを活用する。</p> <p>◆生徒の読解能力のバランスに留意する。</p>
考える (2時間)	<p>(5) 身の回りに残る伝統的な文字や、多様な文字遣いなどについて話し合い、文字文化について考える。</p>	<p>○伝統的なものに限らず、現代にも文字遊びの感覚が残されていることに気付かせる。</p> <p>◆看板・箸袋など、身近な素材にも目を向けさせる。</p> <p>◆文字の文化的な役割の理解にも、関心をもたせる。</p>

8 事後指導の工夫

- 近代における活字印刷の歴史とその役割にも関心を広げる。
- 絵画資料と文字とのかかわりについても関心を広げる。



＜单元4＞ 日本の遊び

指導内容との関連 (1) -②

カリキュラム 单元例 <6>

1 指導のねらい

- (1) 日本の遊び「いろはかるた」から、ことわざ、江戸と関西の違いなどの地域性を学ぶ。
- (2) 体験的な活動を通して、日本の伝統や文化を理解できるようにする。
- (3) 身近な生活経験・体験からことわざをつくり出すことで、文化を創出する意義や意味について考える。

2 身に付けさせたい力

- 日本の伝統・文化を理解しようとする力
- 「いろはかるた」づくりを、生活や交流等に生かす力

3 教材の特質

- (1) 国語科と美術科によるティーム・ティーチング体制などによる指導など、多様な指導形態が工夫できる。
- (2) 実際につくった手作りかるたによる「かるた大会」、幼稚園や小学校との交流、介護施設との交流など、生きた学習に発展させることができる。

4 事前指導、準備の工夫

- 昔からある日本の遊びについて、視聴覚機器を使って見せておく。また、生徒の関心や意欲をアンケート等で事前に調査しておく。
- 江戸時代の「いろはかるた」には、差別的な文言や表現もあるので、事前に適切な指導ができるよう、準備しておく。

5 展開例

- (1) 地域の特徴を生かした「いろはかるた」をつくる。
- (2) 日本に古くから伝わる遊びについて調べる。また、日本の遊びをヒントに、新しい楽しみ方について考える。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
「いろはかるた」を使った遊び方に興味をもち、その活用法を考えようとしている。	身近な生活や経験からことわざをつくり出している。	幼稚園や小学校との交流、介護施設との交流など生きた学習に学んだことを発展させている。	いろはかるたのよさや面白さ、日本のことわざに込められた人々の思いを理解している。
30%	20%	30%	20%

7 指導計画と指導のポイント

○「いろはかるた」で遊ぶ（「つくる」のまとめと「話し合う」2時間）

※本時は、日本の遊び6時間のまとめとして位置付けている。

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導上の留意点◆
考える (2時間)	(1) 自分たちでつくったカルタで遊んでみる。 (2) つくり上げた「いろはかるた」の活用法、遊び方をグループごとに考える。	◆カルタの文言や表現した図や絵に人権的な配慮に欠けるものがないかをみる。あった場合には、適切な指導を行う。 ○ホームルーム、学校行事、地域活動など様々な活用の場面を考えさせる。
企画と運営 (3時間)	(3) 「いろはかるた」を使った遊びやイベントを考え、企画書をつくる。	○グループ学習にする。 ◆一人一役、適材適所など、遊びを考えることから、集団としての在り方を見付けさせる。 ○足りない文字のカルタをつくろうという意欲の醸成に心掛ける。
発表 (1時間)	(4) 企画をプレゼンテーションする。	◆発表・交流の能力を評価できる運営を心掛ける。 ○日本の遊びから文化を大切にする心や文化を広めようとする心を学ばせる。

8 事後指導の工夫

○授業の記録をとり、学校の特色のある取組とするなど、様々な工夫や活用法を生徒と教師が共に考えていく。

○主体的にカルタ1組を作り上げる気持ちを育て、地域との交流の能力を生かせるよう工夫する。



＜单元5＞ 箸と椀

指導内容との関連 (1)－②、(2)－③

カリキュラム 单元例 <3>

1 指導のねらい

- (1) 一般的な食器の種類・素材・役割・歴史を理解させる。
- (2) 日本、韓国、中国における食器の比較研究を行い、同じ食器から他文化の理解を図る。
- (3) 割り箸を通して環境問題に触れ、持ち運びできる自分用の箸をつくる有用性を理解させると同時に、創造性を生かした箸を制作させる。

2 身に付けさせたい力

- 日本人の食に対する関心と食のマナー
- 道具を通して、日本の文化と諸外国の文化を比較できる力

3 教材の特質

箸と椀という古くからあり今も使っている日本の道具から、日本人の考え方や技について、幅広く学ぶことができる。



4 事前指導、準備の工夫

- 視覚的な資料とともに、実際に様々な形状の箸や椀を準備しておくといよい。


5 展開例

- (1) 「食」から「衣食住」に発展させるなど、日々の生活とのかかわりの中から日本の伝統・文化を考えさせる。
- (2) 生徒が興味をもった題材をテーマに、課題研究に発展させる。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
日本の食生活に欠かせない箸と椀に興味をもち、進んで箸作りに取り組もうとしている。	箸を持ち運ぶための工夫及び使う立場に立ったデザインの工夫をしている。	自分の箸をつかって互いに見せ合い、その出来映えについて話し合っている。	日本、中国、韓国のそれぞれの箸の素材と形状との違いなどを把握し、箸の歴史や文化について体系的に理解している。
25%	25%	25%	25%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導の留意点◆
導入・学ぶ (1時間)	(1) 一寸法師を読むことにより、箸や椀に興味・関心をもつ。 (2) 同じ箸を使いながら、国ごとに異なる文化やマナーについて学ぶ。	○食育の中の食の安全などの講義と含めて展開をする。 ○日本の歴史の中で箸と椀はどのように使われてきたかについて指導する。 ◆食文化を学ぶ心構え「モラルやマナー」について理解させる。
展開1・比較する (1時間)	(3) 日本・韓国・中国の箸を使う。 ①豆を挟んで、移してみる。 ②使い具合を比較してみる。 (4) 持ち寄った自分たちの箸について話し合う。 (5) 集めた割り箸について話し合う。 (6) 箸の正しい使い方を知る。	○素材と形状の違う三つの国の箸から、食文化の違いについても理解させる。 ◆比較する項目を明確にしておく。 ・長さ ・材質 など 
展開2・つくる・話し合う (3時間)	(7) 自分用の箸をデザインする。 (8) 箸を制作する。 (9) 携帯できるように箸袋などをつくる。 (10) 出来上がった箸について話し合う。	○自分の手に合ったデザインをする。実際に使える箸を作り出す。 ◆各自の作業時間に合わせ、つくるものを工夫させる。 ○持ち運び、実際に使用して、考えさせる。 ○グループで行う。 ○互いのよさを見いだせるようにする。
まとめ (1時間)	(11) 学習したことをまとめ、話し合う。	○論拠を明確にし、聞き手に分かりやすい説明をさせる。

8 事後指導の工夫

- 修学旅行で食にかかわる慣習や作法などの違いについて調べるなど、学校教育全体の中で「食」を通して、生徒が主体的に日本の伝統・文化を学べるようにする。
- 地域にある「食文化」についても調べてみる。

＜单元6＞ 日本の住まい

指導内容との関連 (2)－①、(2)－④

カリキュラム 单元例 <25>

1 指導のねらい

- (1) 古代から現代に至るまでの日本の住まいの変化の概略と、そこではぐくまれた生活文化を理解する。
- (2) 東京都内に実在する伝統的な建築の見学を通して、その空間を実体験するとともに、そこで行われた各種行事などを体験する。

2 身に付けさせたい力

- 日本の住まいに関する基礎的な知識を習得する力
- 見学対象を選び出し調査・発表する力

3 教材の特質

日本の住まいに関する基礎的な学習内容を提示している。

4 事前指導、準備の工夫

授業の前に、自分の暮らす住まいについて観察(間取りのスケッチなど)を行うように指導する。また、このスケッチをもとに事前の意見交換会などを行ってもよい。



5 展開例

生徒の学外見学や課題研究に発展させる。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
生活空間に対して関心をもち、歴史的な歩みなどの視点からとらえ直そうとしている。	現代の日本に住まう新たな生活空間の提案をしている。	伝統的な生活空間の特質やそこで生まれた伝統文化の魅力を、現代の生活空間との対比の中で説明している。	伝統的な芸術や年中行事などを、その空間において理解し、鑑賞している。
50%	15%	20%	15%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導の留意点◆
導入・知る (2時間)	(1) 現代の住まいについて知る。 (2) 「寝殿造」について、平安時代の貴族文化とともに学ぶ。 (3) 「床の間」と「書院造」の意味を学ぶ。 (4) 江戸時代に生まれた農家・町家・武士住宅の特質を学ぶ。	○テレビや映画の時代劇や漫画などの身近な題材を適宜引用する。 ○現代の住居との対比を行わせるようにする。 ◆参考資料、特に巻物などの絵画資料やビデオなどを活用して、空間を具体的にとらえられるように工夫する。
展開・見学 (4時間)	(5) 見学の概略を調べる。 (6) 文化財建造物を見学し、建物内の空間を体験する。 (7) 見学先の解説を参考にして、平面図に記入する。 (8) ディスカッションを行う。 ・見学先の建物と現代の住居との比較	○江戸東京博物館・江戸東京たてもの園内の施設のほかに、国・都・市町村指定の文化財建造物や関連資料を活用する。積極的に活用する。 ○それぞれの部屋でどのような行為が行われていたのかを推測させる。 ○生徒それぞれの視点のよさを見いださせるようにする。
まとめ (4時間)	(9) 伝統的な習わしや行事を調べる。 ・障子の張り替え ・煤(すす)払い ・床の間の設営 ・節句の行事 など (10) 習わしや行事を体験する。 (11) 「結界」について調べる。 ・「結界」とその由来 ・それぞれの結界 [例] 日本建築、茶道、寺社仏閣生活や作法	○他教科等との連携を工夫したり、外部講師を依頼したりする。 ○必要な資料、道具を準備する。 ○仏教とともに日本にもたらされ、定着した「結界」について調べさせる。その美を探求することにより、建築はもとより、生活文化も学ばせるようにする。

8 事後指導の工夫

- 日本の伝統・文化に関する他単元(例:日本の遊び・和の響き・ジャパンパーティーなど)と関連した催しを文化財建造物などで行い、より総合的な理解を深める。

<単元7> 文化としての日本の音

指導内容との関係 (1) -③、(3) -②

カリキュラム 単元例 <12>

1 指導のねらい

- (1) 日常生活の音に着目し、文化や社会における音の意味、役割を理解する。
- (2) 音環境の中で「変わるもの」と「変わらないもの」を探究し、サウンドマップやサウンドインスタレーションを作成して、音環境の在り方をとらえ直す。
- (3) 文化の中の音が日本音楽の特徴の中に生きていることを感じ取る。

2 身に付けさせたい力

- 一つの物事を多角的にとらえる力
- 計画力と実行力、集まった情報やデータを再構成する力
- 発見した課題を他領域の問題に発展させて考える思考力

3 教材の特質

自分たちで収集した資料やデータに基づいて、創造活動を行うことができる。

4 事前指導、準備の工夫

- インタビューの仕方やアンケートの作成・分析の方法について学ぶとともに、取材に出かける際のマナーやエチケットを身に付ける。
- 録音・再生等にかかわる機材の使用 방법에慣れておく。

5 展開例

生徒の学外見学や課題研究に発展させる。



6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
日常の音環境に興味・関心をもち、音探しなどの活動に積極的に取り組もうとしている。	身の回りの様々な音を聴いて、その文化的な意味や役割を考えたり、音環境をよりよくするためのアイデアを出し合ったりしている。	地域のサウンドマップや自分たちのサウンドインスタレーションをつくり、音環境の大切さを伝えている。	日常生活の中で親しんできた様々な音が、日本音楽の特徴の中に生きていることを感じ取っている。
20%	30%	20%	30%

7 指導計画と指導のポイント

段階		主な学習活動	指導のポイント○、指導上の留意点◆
知る (2時間)	導入	(1) 暮らしの中の、音の意味や役割について話し合う。 ・小川のせせらぎ、風鈴、虫や鳥の音 ・時の太鼓、鐘やサイレン、チャイム ・地域の行事や祭りにおける音・音楽 ・日本の文化における特徴的な音	○日常生活の中で耳慣れた音を「環境」としてとらえ直す。 ◆自然の音、暮らしの音、人が集う場所の音など、実際の音を録音して、生徒に聞かせる。 ◆文献資料やインターネットを活用して、生徒の想像を促す。
	展開	(2) 今と昔を比較し、音の変化について話し合う。	◆生徒の興味・関心を生かしたグループ編成と課題設定を想定しておく。
	次時準備	(3) サウンドマップやサウンドインスタレーションの作り方、グループ編成の仕方、発表の方法などを学ぶ。	○グループで企画、実行、発表、評価することの意義と具体的な方法を学ぶ。
体験する (4時間)	資料収集	(4) グループごとにテーマを決めて、調べ学習やフィールドワークを展開する。 ①地域の音環境、今と昔の比較にかかわるインタビューやアンケートの実施 ②自然の音、身の回りの音、地域の音の録音と収集	◆複数の教員が協力し合い、各グループに適切な支援ができるようにする。 ◆取材に出かける場所の安全確認をするとともに、保護者や地域に協力を呼びかける。
	再構成・創作	(5) サウンドマップやサウンドインスタレーションをつくる。 ・音源とその空間配置の工夫 ・環境要因との共存	○得られた情報を課題に即して、適切に処理する。さらに、それを創作活動へと発展させる。 ◆必要な機材を準備する。
発表する (2時間)	発表と評価	(6) 調べた内容と、サウンドマップ、サウンドインスタレーションを発表する。 ①他グループの評価 ②活動の振り返り（自己評価）	○要点を簡潔に分かりやすく提示する。 ◆評価シートを作成する。
	まとめ	(7) 各グループの発表内容を受けて、音環境の問題について意見交換する。	○課題意識をグループ間で共有し、考察を深める。

8 事後指導の工夫

- 音環境のデザインという観点から、地域の様々な活動へ広げる。
- 能舞台における音響効果など、日本の建築物と音響のかかわりに関心を広げる。

＜单元8＞ 江戸・東京を歩く

指導内容との関連 (1)－②、(2)－③

カリキュラム 单元例 <2>

1 指導のねらい

- (1) 東京の都市としての構造や機能の変遷とともに、多くの歴史的イベントの舞台となった首都の姿を具体的に把握する。
- (2) 江戸時代から明治・大正・昭和に至る古地図や「名所図会」類を手にして地域を歩いて、その変貌の様子を理解する。
- (3) 現在の東京の名所、地域の名所を見だし、まとめ、発表する。

2 身に付けさせたい力

- 江戸、東京の都市の成り立ちを多角的にとらえる力
- 伝統や文化を通して、現在の東京や自分の住む地域を理解し、表現する力

3 教材の特質

歴史や地理に加え、絵画や写真などを資料として江戸、東京の移り変わりをとらえることができる。

4 事前指導、準備の工夫

- 江戸時代から明治、大正、昭和、平成の各時代の変化を理解できる視覚資料を準備する。
- 地図などの資料を用いるに当たっては、人権上の配慮をする。



5 展開例

- (1) 貝塚や古墳など、東京に残る江戸時代以前の遺跡などにさかのぼって歴史や地理の理解に発展させる。
- (2) 生徒が興味をもった題材をテーマに、課題研究に発展させる。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
自分たちが住む東京という都市について関心を持ち、歴史や文学・絵画に関する知識と関連させてとらえ直そうとしている。	構図や陰影、色調などに着目して、現在の東京や、住んでいる地域の名所・百景を表現している。	絵画や絵画から得た情報や自らの体験をまとめて説明するとともに、江戸や東京がもつ魅力を他者に説明している。	東京という都市がもっている地域性や歴史的・文化的意味を理解している。
20%	20%	20%	40%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導の留意点◆
導入・学ぶ (1時間)	<p>(1) 江戸の移り変わりを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太田道灌が江戸城を築いたころの江戸の姿 ・江戸から東京への歴史的な変化 <p>(2) 江戸の都市構造を他の都市と比較しながら学ぶ。</p> <p>(3) 城下町時代の各地域の用途等から、現代の町の姿を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丸の内 ・番町 ・神田 など <p>(4) 災害と復興から町の変化を学ぶ。</p>	<p>○江戸や東京を取り上げた絵画、地図、写真、映像を用いる。</p> <p>◆地図などの資料を用いるに当たっては、人権上の配慮をする。</p> <p>○他の都市の地図を用いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪、京都、札幌 ・ロンドン、パリ <p>○テレビや映画の時代劇や小説、漫画など身近な題材を引用する。</p> <p>○災害からの復興や市区制度の法制度の変化を手掛かりに、現在の東京に至るまでの成り立ちを理解させる。</p>
展開・フィールドワーク (1時間)	<p>(5) 古地図や絵画を現代の地図に情報として書き込み、かつての姿を再現し、変化の様子を知る。</p> <p>(6) フィールドワークの計画を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の東京の名所・百景 ・自分たちの住む地域の名所・百景 <p>(7) フィールドワークを行って、町の変化の様子を調べ、名所・百景を写真撮影する。</p>	<p>○地域の変化を理解し把握するために、公共の図書館の郷土史コーナーやデータベースなどを活用する。</p> <p>○グループ学習にする。各グループが適切な計画を立てられるように適宜アドバイスする。</p> <p>○写真を撮影する季節や時間帯、構図などにも留意させる。</p> <p>◆学校外での活動に当たっては、安全管理等の指導を十分に行っておく。</p>
まとめ (2時間)	<p>(8) コンピュータを使って撮影した写真をCDなどにまとめる。</p> <p>(9) 自分たちの選んだ名所・百景を発表する。</p>	<p>○グループごとに役割分担を決め、協力してまとめさせる。</p> <p>○他のグループの作品のよさに気付きながら、鑑賞させる。</p>

8 事後指導の工夫

- 東京や地域の名所・百景散策コースをつくる。
- 保護者や自分の生まれた時代などの東京について調査し、まとめる。
- 調査テーマに合った映画鑑賞会等も工夫して実施する。

＜単元9＞ 和の響きを聴く

指導内容との関連 (3) -①

カリキュラム 単元例 <10>

1 指導のねらい

- (1) 身の回りの和の響きに興味をもつ。
- (2) 郷土の音楽や伝統芸能に興味・関心をもち、生の音・音楽を聴くことを通してその特徴を感じ取り、和の響きの魅力を味わう。
- (3) 郷土や地域の音楽や伝統芸能に実際にふれることによって、それらの歴史的・文化的な意味を理解する。

2 身に付けさせたい力

- 日本の芸術や芸能の特質及び変遷を理解する力
- 文化の多様性を感じ取る力

3 教材の特質

- (1) 自分たちで課題を見付け、調べる学習や鑑賞活動に発展させることができる。
- (2) 歴史的な流れの中で、和の響きの文化的な意味を探ることができる。

4 事前指導、準備の工夫

- 地域にかかわりのある音楽や伝統芸能について調べるとともに、ティーム・ティーチング等に協力してくれる人材や団体等と打合せを行い、指導のねらいの共通理解を図る。
- 伝統芸能の指導に当たっては、学校行事(例：歌舞伎や文楽の鑑賞教室)と関連をもたせ、系統的な指導ができるよう計画を立てる。


5 展開例

- (1) 特別活動の学芸的行事等とかかわりをもたせ、集団の一員として参加する意義や必要性を学べるように工夫する。
- (2) 舞台裏で活躍する人たち、支える人たちの活動にも視点を当て、多様な価値観をもてるような学習に発展させる。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
郷土の音楽や伝統芸能に関心をもち、積極的にその魅力を味わったり、歴史的・文化的意味を探ったりしようとしている。	郷土の音楽や伝統芸能のよさや特徴を感じ取り、表現の仕方を工夫している。	地域の音楽・芸能に実際に参加したり、音楽的な内容や参加体験を発表したりしている。	生の音楽に触れることを通して、音楽・芸能の位置付けや役割を理解している。
30%	30%	10%	30%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導の留意点◆
導入 (2時間)	(1) 身の回りにある和の響きについて話し合い、発表する。 ・身の回りの和の響きの種類、名称 ・その意味や機能	○生活と和の響きという視点をもたせ、いろいろな音や音楽に気付かせる。 ◆音が鳴っている場や空間にも興味をもたせる。
展開 (2時間)	(2) 郷土の音楽や日本の伝統音楽について知る。 ①様々な音・音楽を聴く。 ②聴いた音楽の背景となる歴史や文化について調べる。 ③伝統音楽や伝統芸能のジャンルや流派などについて調べる。 ④使用される楽器やテキスト、舞台、衣装などを学ぶ。 ⑤継承の方法を知る。 (3) 日本の伝統音楽の新しい展開について知る。 ・和楽器によるポップスなど	○歴史的な意味が理解できるような資料を準備する。 ○伝統的な音楽や芸能を身近に感じる課題提示を心掛ける。 ◆音資料とともに、写真等の視覚的な資料も活用する。 ○生徒が主体的に音源を探すよう指導を工夫する。 
まとめ (2時間)	(4) 和の響きを鑑賞する。 (5) 調べた音楽や芸能についてまとめ、発表する。	○音楽的なよさや特徴とともに、歴史的・文化的な意味を理解しているかどうかを重視する。

8 事後指導の工夫

○実際の舞台を鑑賞したり、聴く活動を表現活動へと発展的に広げたりする工夫をする。

＜単元 10＞ 祭りの魅力

指導内容との関連 (1)－③、(3)－③

カリキュラム 単元例 <18>

1 指導のねらい

- (1) 地域の祭りに関心をもち、歴史的な流れや祭りの意味を理解する。
- (2) 祭りに込められた精神性や表現性を追究し、自己とのかかわり方について考える。
- (3) 地域で学んだことを生かして、自分たちの祭りをつくって発表する。

2 身に付けさせたい力

- 日本人の心を理解する力
- 地域の伝統・文化について自分なりの視点から思考する力
- 交流を深める力

3 教材の特質

- (1) グループごとにテーマを決めて、調べる学習やフィールドワークを企画・実行できる。
- (2) 生徒自身の視点で学習の展開を工夫することができる。

4 事前指導、準備の工夫

地域の町内会、保存会等と連絡をとり地域と連携した指導体制をつくる。




5 展開例

- (1) 生徒会活動、学級活動等と連携した活動に発展させる。
- (2) 他教科等と連携・協力を図りながら、柔軟な指導計画・時間割配当を工夫する。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
地域の祭りに興味・関心をもち、積極的に地域と祭りのかかわりを探ろうとしている。	祭りの歴史や意味を理解し、祭りの継承・発展に自分たちがどうかかわることができるかを考えたり、工夫したりしている。	調べたことや体験したことを生かして、自分たちの考えを発表したり、自分たちの祭りをつくって表現したりしている。	祭りのもつ社会的・文化的な意味を理解し、祭りの魅力を味わっている。
20%	20%	30%	30%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導の留意点◆
導入 (2時間)	<p>(1) 江戸・東京と受け継がれてきた祭りの歴史や概要について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三社祭、神田祭、山王祭 ・祭りと音楽 	<p>○グループ学習を行う。</p> <p>○調べる対象を焦点化させる。</p> <p>○様々なメディアを通して、祭りに関する適切な資料を探索し提供する。</p> <p>◆グループの主体的な活動を支援する。</p>
展開 (6時間)	<p>(2) 地域の祭りの魅力を探る。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①実際に祭りを体験する。 ②実体験を通してグループごとの視点を明確にする。 <p>(3) 地域において祭りに生きる人たちと交流を深め、祭りに対する意識、かかわり方などを学ぶ。</p>	<p>○計画的な活動計画を作成させる。</p> <p>◆生徒が自分たちの視点でアプローチの仕方に気付いたり、学習のプロセスを工夫したりすることを重視する。</p> <p>○祭りを支える人たちへのインタビューの方法を工夫させる。</p> <p>◆地域の保存会等との交流を積極的に呼びかける。</p>
まとめ (2時間)	<p>(4) 祭りの継承・発展に自分たちがどのようにかかわっていくことができるかについて考え発表したり、自分たちの祭りを工夫して表現したりする。</p>	<p>○役割分担や表現・発表方法を工夫させる。</p> <p>○生徒の主体性を重視し、発表の効果が上がる演出を工夫する。</p> <p>◆複数の教員が特性を生かして指導に当たる。</p>

8 事後指導の工夫

○地域との交流活動を継続的なものへ発展したり、他の地域の祭りとの比較研究へ広げたりするなど工夫する。

〔体験・創出的な単元〕

〈単元11〉 アニメ絵巻をつくる

指導内容との関連 (4)－②
カリキュラム 単元例 <1>

1 指導のねらい

- (1) 生徒が日本の伝統・文化を生徒が身近に感じやすいよう、日本のアニメをテーマにその歴史をさかのぼる。また、なぜ日本のアニメが現代日本の文化として発展していったのかを、多角的な視点からとらえて学習する。
- (2) 世界的に評価される日本のアニメの特徴・特質と絵巻づくりを関連させながら伝統や文化について理解する。
- (3) 伝統・文化は「伝承→評価・模倣→創造」というサイクルを何度も繰り返して発展してきたことを理解し、自らの創作的な活動に生かす。

2 身に付けさせたい力

○新しい文化の発展や創造にかかわる力

3 教材の特質

- (1) 学生による模擬授業を参考に、各学校が創意工夫して取り組むことができる。
- (2) 絵巻づくり以外に、パソコンを活用したアニメーションづくりに応用できる。

4 事前指導、準備の工夫

図書室や視聴覚教室にある資料の提供及び貸し出し体制の整備と案内を工夫するなど、事前に何を学習するかについて準備をさせておく。

5 展開例

学芸的な学校行事で発表したり、地域のイベントに参加したりするなど、発表・交流の機会を増やす。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
鳥獣戯画や北斎漫画等の構図や構成、技法等に興味・関心をもっている。	日本のアニメを再認識し、協力しながら新たな価値観を創出している。	絵巻物づくりに取り組み、そのよさに気付くとともに、他者に説明している。	伝統・文化に関する作品に関心をもち、そのよさや美しさを感じたり、味わったりしている。
20%	30%	30%	20%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導の留意点◆
知る (2時間)	(1) アニメーション及び絵巻について、どのように学ぶかを明確にする。	○鑑賞教材としてのアニメーションの選択 ◆「絵巻」の説明を工夫する。
体験する (4時間)	(2) 主人公のキャラクターをつくる。 ・ 一人で作る→形の変容を利用 ・ 二人以上で作る→伝言ゲーム 4コマ漫画など (3) 物語をつくる。 ・ 二人で作る。 ・ グループで作る。(共同制作) (4) アニメ絵巻をつくる。 ①材料について ・ 和紙や墨を使う。 ・ 身近な材料も使う。 ※シート的心材、紐等 ②描画 ③仕上げ	○ワークシートの活用 ◆指導法の工夫 (プリント、板書、機器等) ※自己と他者の違いに気付かせる。 ○言葉や文章で作る。 絵で考える→絵コンテ ◆役割分担を明確にする。 ○発想・構想の能力を高めるアニメ絵巻であることを強調する。 ※「創造への工夫」を重視する。 ○◆教師(学校)が用意するものを連絡しておく。 ○貼り絵も取り入れる。(柔軟な対応) ※進度によって工夫させる。 ○◆どこまで仕上げさせるかを生徒に明確に示す。
発表する (2時間)	(5) アニメ絵巻を発表し、鑑賞する。	○よい点を、生徒による自己評価、他者評価から見付け出しまとめる。 ○作品の活用法を考えさせる。

8 事後指導の工夫

○小学校や介護施設への訪問など、多様な活動へ発展する。

<単元 12> モダン都市東京の生活文化

指導内容との関連 (1)－⑤、(2)－①

カリキュラム 単元例<4>

1 指導のねらい

- (1) 昭和初期に生まれた都市文化の広がり、郊外住宅地・オフィス街・繁華街の3つの視点から理解する。
- (2) 昭和初期に東京で生まれた都市文化が、その後のどのような発展を遂げたのかを調査発表する。

2 身に付けさせたい力

- 近現代の文化を生活の視点から把握する力
- 資料を使って調査する力
- 文化の違いに気づき、文化の創造や発信に生かす力

3 教材の特質

教材が示した内容は、生徒が課題研究を行う際の指針であり、個々の課題研究のテーマを与えるために各学校が創意工夫する。

4 事前指導、準備の工夫

生徒が興味や関心をもっている現代文化の動向をつかんでおく。




5 展開例

- (1) 生徒がテーマをもって行う課題研究に発展させる。
- (2) 博物館や都心部の都市景観の見学と関連させる。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
現在の様々な大衆文化の誕生の場としての東京に関心をもっている。	過去・現在の文化的活動を関連付け、発展、変化の様子をイメージしている。	様々な方法で得られた情報をまとめて自分なりに発表している。	東京という巨大都市を媒介にして、多様な文化活動を互いに関連させて理解・鑑賞している。
20%	25%	30%	25%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導の留意点◆
知る (4時間)	<p>(1) 昭和初期の東京に関する基礎的なデータを知る。 ・区政 ・人口 ・鉄道網 など</p> <p>(2) 代表的な街の姿を現代と比較しながら理解する。 ・丸の内 ・新宿 ・上野 ・浅草 ・世田谷 など</p> <p>(3) 消費文化と娯楽文化の広がりについて学ぶ。</p> <p>(4) 大正から昭和初期にかけて出現した代表的な文化活動について理解する。</p>	<p>○東京の昔の15区・35区時代の地図資料や統計資料を活用する。</p> <p>○昭和初期の「東京案内」をテキストに用いる。</p> <p>○各種写真資料や新聞の縮尺版、雑誌のバックナンバー、あるいは映画・映像資料なども活用する。また、図書館等を利用した資料の検索方法を提示する。</p> <p>◆具体的な町の姿を念頭におく。 ◆展開授業で生徒が行う調査テーマ設定に配慮する。</p>
調べる (2時間)	<p>(5) 調査の計画を立てる。</p> <p>(6) 調査をする。 ・グループごとに映画や写真を見ながら、調査項目を決めて調査を行う。</p> 	<p>○グループ学習とする。</p> <p>○公共図書館などの施設でのインタビューやインターネットを活用する。</p> <p>○1920～30年代にかけて出現した都市の生活文化の中からキーワードを選ぶ。 [調査項目の例] 映画を選択した場合「映画館」、「白黒からカラーへ」、「チャップリン」、「映画監督」など</p> <p>◆グループごとの課題設定が重複しないように指導する。 (◆調査の進行状況をみながら随時指導する。)</p>
発表する (2時間)	<p>(7) 発表会を行う。 ・調査内容についてディスカッションする</p> <p>(8) まとめてレポートを作成する。</p>	<p>○グループごと、あるいは生徒個人が適切なテーマ設定を行えるように適宜アドバイスを行う。</p>

8 事後指導の工夫

- 保護者や自分の生まれた時代等の東京についても調査し、比較しながら発表する。
- 調査テーマを決めた映画鑑賞会等も、工夫して実施する。

＜単元 13＞ 身の回りの情報・メディア

指導内容との関連 (1)－②
カリキュラム 単元例 <23>

1 指導のねらい

- (1) 身の回りにある多様なメディアの特徴を知り、それらを通して情報や知識が伝わることの意味を理解する。
- (2) 国の内外のメディアにおいて、日本の伝統的な文化がどのように位置付けられ、扱われてきたかについて調査し、理解を深める。

2 身に付けさせたい力

- 情報を取捨選択する力
- 物事を多角的に分析し、理解する力
- 身近な情報に着目することで、地域社会を再認識する力

3 教材の特質

- (1) グループごとに、〈情報〉についての調査や議論を行うことで、自分の思考と情報との関係を相対的に整理する。
- (2) 日本の伝統的な文化が、最先端のメディアにも用いられていることを認識する。
- (3) 海外諸国の日本文化に対する認識を調べる中で、日本文化に対する多角的な視点をもつことができる。

4 事前指導、準備の工夫

- 書籍、インターネットなど、調査のツールとなるものについての利用能力を確認しておく。
- 情報やメディアの概念について、整理してから調査・議論を行う。

5 展開例

教科「情報」などに関連付けて、生徒の主体的な研究に発展させる。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
自分たちの身の回りにある情報に対し、積極的にかかわろうとしている。	メディアの違いによる情報の質の違いをとらえ、工夫して分類している。	文化とメディアの関係について、自分の意見をまとめて分かりやすい発表をしている。	メディアが新しい情報に限らず、伝統的な文化を効果的に取り入れていることを理解している。
20%	30%	20%	30%

7 指導計画と指導のポイント

段階		主な学習活動	指導上のポイント○、指導上の留意点◆
調べる (2時間)	導入	(1) 出版や情報・メディアの概要を理解する。	○学習の位置付けと課題を確認させる。 ◆最初は身近な素材から〈情報〉を認識させる。
	調査・整理	(2) 身の回りの情報・メディアを調べる。 ①新聞、雑誌、書籍、インターネットなどの中から、特に興味・関心のある媒体(メディア)を選択する。 ②選択したメディアの機能的な特徴、長所と短所などについて調べ、まとめる。	○生徒一人一人の興味・関心を生かしたグルーピングを工夫する。 ◆調査の対象や方法を具体的に指導する。 ○グループごとにまとめ方を工夫させる。
考える・話し合う (2時間)	展開	(3) メディアと伝統的な文化について考える。 ①日本の伝統的な文化が、現代において、国内外のメディアの中でどのように扱われているかを調べる。 ②集まった情報を整理し、メディアと伝統的な文化の関係、外国の日本に対する認識を理解する。	○資料の収集と提示の仕方を工夫する。 ◆特に海外諸国の日本文化に対する記述を、興味本位で扱わず、冷静に分析させる。 ◆情報についての生徒たちの認識の進歩を確認する。
	まとめ	(4) 討論と発表を行う。 ①改めて自分たちを取り巻く情報・メディアの状況について議論し、これからのかかわり方を考える。 ②単元で学習したことを生徒一人一人がまとめて、レポートを作成する。	○情報があふれていることの長所・短所の双方について考える。 ○まとめ方については、個々の生徒の創意工夫が生かされるようにする。

8 事後指導の工夫

- 情報と人々の行動についての理解を深め、自分が情報を発信する側にまわったときの意識や行動にも考えの範囲を広げる。
- アニメ、漫画など、これまでサブカルチャー的に扱われてきた情報媒体の位置付けにも関心を広げる。

＜单元 14＞ 出版文化の誕生を探る

指導内容との関連 (1)－②、(4)－①

カリキュラム 单元例 <20>

1 指導のねらい

- (1) 書物が出版という形態をとって流布することの意味について考える。
- (2) 出版物の分野の多様性を通じて、江戸という都市が、既に近代的な諸要素をもっていたことを知る。
- (3) フィールドワークを通して、出版文化全体の流れを知るとともに、世界の中での日本の出版物の特徴について理解する。

2 身に付けさせたい力

- 多面的にデータを収集し、論理的に整理する力
- 歴史と現代社会の共通点・相違点を客観的に把握する力

3 教材の特質

- (1) 書籍・情報を「もの」としてとらえ、そこに日本文化の伝統が多様な形で盛り込まれていることに気付くことができる。
- (2) 日本人のメディア社会への対応能力は、歴史的・伝統的なものであることを認識できる。
- (3) 教材内の他の単元や、国語・日本史などの教科と双方向的に学習・理解できる。

4 事前指導、準備の工夫

- 可能な限り実物の資料を用意する。
- 素材に興味をもちやすい「いろいろな文字を読んでみよう」を先に学習する。


5 展開例

生徒が課題をもち、社会の在り方について主体的に学習できる課題に発展させる。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
現在とは異なる本の形態や、文字の姿について関心をもち、進んでその内容を知ろうとしている。	現在の出版物がもっている情報の内容と比較し、そこから江戸時代の社会の様子をイメージしている。	世界の印刷文化における江戸時代の出版文化の特徴について、自分なりの考えをまとめて発表している。	出版物の歴史的な流れや意味について理解するとともに、和の素材のよさを味わっている。
20%	20%	20%	40%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導上の留意点◆
導入・知る (4時間)	<p>(1) 情報・メディアの変遷を学ぶ。</p> <p>①「写本→版本→活版印刷→現代のメディア」の流れを知り、情報が多くの対象に広がることを理解する。</p> <p>(2) 日本の出版文化の歴史を学ぶ。</p> <p>①実際に和綴じの本を手に取り、形態や手触りを体験する。</p> <p>②出版文化から、江戸時代の人々の生活を立体的にとらえる。</p> <p>③数多くのジャンルの出版物について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武鑑（大名などの名鑑） ・黄表紙 など 	<p>◆事前に情報の概念について整理・確認しておく。</p> <p>○情報がより多くの対象に広がることの意味を確認しながら説明する。</p> <p>○和紙を用いた媒体を体感できるように、資料の提示等を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図録 ・安い和綴じ本 ・複製本のコピーなど <p>◆資料を扱う際のマナーに留意する。</p> <p>○江戸に関係する出版物の資料を準備する。黄表紙や絵本を用いて、絵と文字が情報として融合していることを理解させる。</p> <p>◆現代社会における情報と比較検討しやすい素材を選ぶ。</p> <p>○郷土史家や大学の教員などゲストティーチャーの活用も視野に入れる。</p>
考える (4時間)	<p>(3) 見学・体験する</p> <p>①多様な出版文化の社会の中での位置付けや活版印刷などについて体験的に理解する。</p> <p>(4) 見学の結果をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の印刷文化との比較 ・江戸時代の出版文化の特徴 <p>(5) 発表する。</p>	<p>○江戸東京博物館や印刷博物館を見学する。</p> <p>◆見学先での行動・マナーについて事前に確認しておく。</p> <p>○印刷物のもつ意味について、改めて生徒が自ら問い直していくような指導を工夫する。</p> <p>◆本という具体的な「もの」から、「情報」という抽象的な事柄への展開を意識させる。</p>

8 事後指導の工夫

- 「本作り」のような伝統的な技術全般にも関心を広げる。
- 「和紙」という素材や「紙を大切にする」という観点から、日本の環境問題にも関心を広げる。

<単元 15> 儀式における音・音楽

指導内容との関連 (1)－③、(3)－②

カリキュラム 単元例 <24>

1 指導のねらい

- (1) 儀式と音・音楽とのかかわりに関心を持ち、そこで果たす音・音楽の役割を探る。
- (2) 様々な儀式に用いられる音・音楽が、歴史的・地域的に変化してきたことを理解する。

2 身に付けさせたい力

- 儀式の意味や在り方について考え、問い直す力
- 儀式や行事を企画・運営する力

3 教材の特質

調べる学習を通して、儀式における音・音楽の効果を探り、表現活動へと結び付けていくことができる。

4 事前指導、準備の工夫

厳格な雰囲気味わえるような視聴覚教材等を準備する。

5 展開例

儀式(イベント)に合った音楽・音響を工夫して演出し、発表し合うなど、生徒の課題研究と発表活動に発展させる。



6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
儀式で鳴り響く音・音楽に興味・関心を持ち、儀式と音・音楽のかかわりを積極的に理解しようとしている。	儀式で用いられる音・音楽を聴いて、その特徴を感じ取り、生活や身近な行事への生かし方を工夫している。	音や音楽にこだわった自分たちなりの儀式や行事の演出を工夫し、発表している。	過去、現在の日本の儀式で用いられた音・音楽の意味や役割、効果等を理解して聴いている。
30%	15%	15%	40%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導の留意点◆
導入 (2時間)	<p>(1) 歴史的に儀式で用いられてきた音・音楽について知る。</p> <p>①卒業式や結婚式、葬式等における音・音楽</p> <p>②古来の儀式で用いられる音楽</p> <p>③オリンピックやワールドカップなど巨大イベントにおける音・音楽</p>	<p>○様々な歴史的資料を準備する。できる限り、文献資料のみならず、音源や楽器、楽譜、さらには視覚資料等を用意する。</p> <p>◆地理歴史の学習内容と関連付ける。</p>
展開 (4時間)	<p>(2) テーマごとにグループを編成し、各グループで調べる学習、つくる学習をする。</p> <p>①卒業式と音楽</p> <p>②結婚式と音楽</p> <p>③葬式と音楽</p> <p>④オリンピックなど巨大イベントと音楽</p> <p>(3) 各グループが調べたことを発表し合う。</p> <p>(4) 自分たちで選択した儀式や行事(イベント)を演出し、それに合わせてつくった音楽・音響について発表する。</p>	<p>○生徒一人一人の興味・関心、さらには学校や地域の特性を生かしたグルーピングを工夫する。</p> <p>◆複数の教員が協力して指導に当たる。</p> <p>◆文献資料、メディア及びゲストティーチャーの活用を工夫する。</p> <p>○発表の効果が上がるよう演出を工夫する。</p>
まとめ (2時間)	<p>(5) 各グループの発表内容について意見交換し、生徒相互が評価し合う。</p>	<p>◆評価シートを配布し、自他のよさを評価させる。</p>

8 事後指導の工夫

- 学校における実際の行事においても、音・音楽を工夫する。
- 学習成果を生かし、地域の儀式や行事に積極的に参加する。



<単元16> 世代をつなぐ日本のうた

指導内容との関連 (3)－①
カリキュラム 単元例 <22>

1 指導のねらい

- (1) 様々な日本のうたに興味をもち、それらの成り立ちや意味、価値などを探究する。
- (2) 世代を超えて好まれる日本のうたのよさや特徴を理解する。
- (3) 日本のうたを通して、子どもから高齢者までの異なる世代とのかかわり、表現・交流する力を培う。

2 身に付けさせたい力

- 表現すること、発表することを通して交流を深める力
- 多様な価値観を認め合い共有する力

3 教材の特質

- (1) グループごとにテーマを決め、調べる学習やアンケート調査、フィールドワークなどを展開することができる。
- (2) 自分たちで収集したデータ資料に基づいて、表現・交流活動を行うことができる。

4 事前指導、準備の工夫

「日本のうた」については、昔なつかしい「うた」とともに、生徒の中で大切にされ、歌われている「うた」も取り入れるよう工夫する。



5 展開例

新たな世代に引き継ぎたい「うた」についても、まとめてみる。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
日本のうたに興味・関心をもち、成り立ちやうたの意味、価値を探ったり、うたを介した交流に積極的に参加したりしている。	世代を超えて好まれる日本のうたのよさや特徴を感じ取り、うたによるかかわり方の工夫を表現している。	世代を超えて好まれる日本のうたを介して、多様な世代の人々と交流し、自分たちの演奏や表現を発表している。	日本のうたの魅力を感じ取り、人間とうたのかかわりを認識しながら聴いている。
20%	20%	40%	20%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導の留意点◆
導入 (1時間)	(1) 日本のうたのジャンルを知り、それらの特徴を知ったり、代表曲を実際に歌ったりする。	○生徒が各ジャンルの特徴やよさに自ら気付くよう、適切な音源や資料を提供する。 ○興味・関心を生かしたグルーピングの工夫を図る。 ◆調べるうたのジャンルをあらかじめ焦点化する。
展開 (4時間)	(2) 「世代をつなぐ日本のうた」に関するアンケート調査と聞き取り調査をする。 ・課題の明確化 ・調査の内容・方法の工夫 (3) 交流会を企画・構想する。 ・調査の結果の分析、考察 ・結果に基づいた交流会の企画・構想 ・役割分担や表現・発表の仕方の工夫 ・練習の仕方や演出方法の工夫 (4) 交流会をする。	○アンケートやインタビューに生徒が主体的・創造的に取り組むようにする。 ◆複数の教員が連携・協力し、各グループの指導を工夫する。 ◆地域に協力を呼びかける。 ○教員も生徒と共に交流会に主体的・創造的に参加する。 ○聴衆の表現活動への参加を工夫する。
まとめ (1時間)	(5) 活動を振り返る。 ・交流会のよさと課題	○自己評価や相互評価など適切な評価方法を工夫する。

8 事後指導の工夫

○地域の施設などとの交流、地域の外国人や留学生との交流を深め、多様な活動へ展開する。



<単元 17> 大相撲と現代生活

指導内容との関連 (1)－④、(2)－⑤

カリキュラム 単元例 <新>

1 指導のねらい

- (1) 日本の伝統・文化を生徒が身近に感じるとともに、国際的に活躍する場面を設定し、そこで日本について、話したり説明したりできる能力を身に付ける。
- (2) 国技である相撲について理解を深める。
- (3) 地域の相撲部屋や相撲資料館、ホームページなどを利用して、興味をもって課題研究を図る。

2 身に付けさせたい力

- 日本の伝統・文化に対する正しい理解力
- 課題を見付け、調査研究できる力

3 教材の特質

- (1) 課題解決型の学習を展開できる。
- (2) 「ちゃんこ鍋」の料理体験等を通して、大相撲に対する興味・関心をもつ学習活動を行うことができる。

4 事前指導の工夫

東京には多くの相撲部屋があるので、地域によっては、指導や力を得たり、事前に生徒自身が調べたりすることで、より強く興味をもって学べるようにする。


5 展開例

生徒の課題研究に発展させる。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
大相撲について、調べたり実際に見たりしたいと、興味・関心をもっている。	「ちゃんこ鍋」づくりに自らアイデアをもって、取り組んでいる。	調べたこと、分かったことを、分かりやすくまとめている。	相撲の見方や楽しみ方を理解している。
25%	25%	25%	25%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導の留意点◆
導入 2時間	(1) 大相撲の歴史と文化を学ぶ。	◆指導すべき内容を明確にしておく。 ○相撲協会のホームページなどを参考に にする。
展開 2時間	(2) 「ちゃんこ鍋」をつくる。 ①グループ分け ②材料、調理用具の準備 ③調理 ④味見会 ⑤後片付け 	○地域にある相撲部屋の協力を受ける など工夫する。 ◆グループで協力して、「ちゃんこ」に ついて考え、体験できるようにする。 ○地域の素材を使うなど、各自が工夫し て材料等を集められるよう指導する。 ◆家庭科における調理実習と関連をも たせながらも、生徒の主体性を生か す。 ◆地域に相撲部屋がある場合には、協力 等を得る。 ◆食品衛生上の注意を十分に行うよう にする。
まとめ 2時間	(3) 相撲について調べよう。	○相撲にかかわる様々な事柄から、課題 研究ができるように工夫する。

8 事後指導の工夫

- 国技である相撲に対する理解を深めることで、日本人として継承していくべき伝統・文化について、生徒がしっかり自覚できるような事後指導に心掛ける。
- 他にも後世に伝えるべき伝統・文化について、その伝え方や守り方を考える気持ちを醸成する。

＜単元 18＞ 着付け・和装

指導内容との関連 (1) -②、(2) -②

カリキュラム 単元例 <新>

1 指導のねらい

- (1) 着物の歴史について学ぶとともに、和服の各部位の名称や小物などについても理解を深め、和装文化を歴史的・総体的に学習する。
- (2) 実際に着付けを行い、また収納などの技術を身に付けることで、伝統的な服飾の豊かさ、美しさを体験する。
- (3) 単に和服を着るだけでなく、それを着た際の立ち居振る舞いや日本舞踊などを含め、幅広い視点から和装について学習する。

2 身に付けさせたい力

- 伝統文化に対する知識を体系的に身に付ける力
- 身体を通して日本文化の豊かさに反応する力
- 日本の四季や日本独特の素材に対する注意力

3 教材の特質

- (1) 着付けや礼儀作法を経験することで、体感的に日本の伝統文化に接することができる。
- (2) 素材・技術・意匠など、他の日本の伝統文化も含めて多角的に学習できる。

4 事前指導、準備の工夫

- 生徒の和装体験について、把握しておく。
- 金銭的な負担のかからない範囲内で、できるだけ和服を準備する工夫をする。

5 展開例

茶道、華道や古典芸能など、他の分野にも関心をもたせる。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
和装に興味をもち、その歴史・名称や、種類について積極的に調査を行おうとしている。	着付けの指導を受けた後、積極的に自分でも試すとともに、美しい着こなしへの意識をもっている。	礼儀作法を身に付けることで、美しく人と接することや、日本舞踊へ積極的に取り組んでいる。	着物そのものの素材やデザインに関心をもち、季節感とのかかわりについて興味を示している。
25%	25%	25%	25%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導上の留意点◆
調べる (2時間)	<p>(1) 着物の歴史と、和服の各部位の名称を学ぶ。</p> <p>①着物の歴史について調べ、日本人の服飾の変化を知る。</p> <p>②図版などを用いて、和服の各部の名称や、種類について知る。</p> <p>③季節や目的に応じて異なる素材・デザイン・着付けの仕方の違いを知る。</p>	<p>○グループ学習とする。</p> <p>◆図版だけではなく、不必要になった着物の実物などを用意し、より体感的に知識を得られるようにする。</p> <p>◆資料的な調査だけでなく、家族等からの聞き取りも行わせる。</p> <p>◆着物の中に様々な日本文化が織り込まれていることに気付かせる。</p>
実際に着る (2時間)	<p>(2) 和服を着る</p> <p>①重ね方や帯の結び方に気を付ける。</p> <p>②美しく着こなすことに留意する。</p> <p>(3) 和服のたたみ方など、収納について習得する。</p>	<p>○グループ学習とする。</p> <p>◆グループで一着程度の着用を用意し、着付け講師などの指導により、的確に着付けを学ばせる。</p> <p>◆和服の素材を傷めないよう、配慮する。</p>
和服を着て動く (2時間)	<p>(4) 和服を着て礼儀作法・日本舞踊を体験する。</p> <p>①着物を着こなすだけではなく、美しい動作、礼儀作法を学ぶ。</p> <p>②日本舞踊を通して、和服と日本人の動きについて体感する。</p> <p>③着物文化についてのまとめとして、和装についての話し合いを行う。</p>	<p>○グループ学習とする。</p> <p>◆歩く・座るなど日常的な動作についても意識させる。</p> <p>○外部からの講師を招へいする。</p> <p>◆知識として調べた時点と、実際に着た後の意識の違いについて意見を交換させる。</p>

8 事後指導の工夫

- 茶道、華道や伝統工芸、伝統芸能など多角的に興味を広げる。
- 日本の古い住居における動作と、和装との関係についても考える。



<単元 19> 道に学ぶ —茶道・華道—

指導内容との関連 (1)－④
カリキュラム 単元例 <28>

1 指導のねらい

- (1) 茶道と華道の歴史や思想を学ぶことにより、日本人の美意識と精神性にふれる。
- (2) 茶道または華道の作法を経験し、所作の美しさを感じ取れるようにする。
- (3) 茶の湯や生け花の実践を通して、外国からの客人とのコミュニケーションを図る。

2 身に付けさせたい力

- 型や礼儀作法を通して日本の伝統・文化を理解する力
- 茶道や華道の伝統・文化を受け継ぐ力

3 教材の特質

- (1) 生徒の興味・関心に応じて、茶道と華道のいずれか一方を選択して学習することができる。
- (2) 理念等の調べ学習に加えて、所作等の実践的な学習を行うことができる。



4 事前指導、準備の工夫

- (1) 地域の人材、学校内の人材等の指導者名簿等を準備し、外部及び内部の講師を導入する体制づくりをする。
- (2) 和室の活用など、環境整備に心掛ける。

5 展開例

生徒の課題研究と発表活動に発展させる。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
茶道、華道における求道的側面と精神性の奥深さに興味・関心をもっている。	型を学び、その意味を考えることによって、所作や生活環境の改善に結び付けている。	茶道、華道の型に込められた精神性を、外国からの客人に、分かりやすく紹介している。	茶道、華道における立居振舞いの美しさや自然との調和、道具等の美術品の価値を味わっている。
25%	25%	25%	25%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導の留意点◆
導入・知る (2時間)	<p>(1) 茶道と華道における日本人の精神性にふれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「道」成立の経緯と現代の位置付け ・宗教や思想との関係 ・歴史的に代表する人物 <p>(2) 茶道及び華道について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の変遷 ・用語の意味 ・他国の習慣との比較 	<p>○美に対する生徒たちの感性を掘り起こすために、視聴覚資料を活用する。</p> <p>◆日本史や世界史で学んだ知識や家庭科で身に付けた技能等と関連付けるようにする。</p> <p>○生徒の興味・関心を生かしたグループ編成や課題設定を考える。</p> <p>○複数の教員が協力するとともに、地域の人材に呼びかけ、各グループに適切な支援ができるようにする。</p> <p>◆文献資料やインターネットを利用して探索させ、要点をまとめさせる。</p>
展開・体験する (4時間)	<p>(3) 茶道や華道の基本的な所作を学ぶ。</p> <p>①茶道</p> <ul style="list-style-type: none"> ・客の作法 ・亭主の作法 ・半東（亭主の補佐役）の作法 <p>②華道</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花材の選択と組合せ ・花器との接し方 ・構成と配置 	<p>○複数の教員が協力するとともに、地域の人材に呼びかけ、各グループに適切な支援ができるようにする。</p>  <p>◆作法や技術面の習得に専念するのではなく、絶えず精神性への理解が深まるように工夫して指導する。</p>
まとめ・発表する (2時間)	<p>(4) 調べたことや身に付けた技術を披露する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションによる紹介 ・点前や生け花の実践 	<p>◆地域に在住する外国の人々や留学生等に、参加協力の依頼をする。</p> <p>○要点を簡潔に分かりやすく提示する。</p> <p>○安全面に配慮する。</p>

8 事後指導の工夫

- 日常生活における立居振舞いや他者とのコミュニケーションの在り方について振り返り、話し合う。
- 茶を入れたり花を生けたりする習慣を身に付けて、明るく潤いのある生活を工夫する。

＜単元 20＞ 道具と工具

指導内容との関連 (2)－⑤、(4)－②

カリキュラム 単元例 <9>

1 指導のねらい

- (1) 道具や工具の性質と、それによって生産されるものの関係を理解するとともに、生産されたものと生活との関係を考える。
- (2) フィールドワークを通して、道具の仕組みや使い方、地域の特色などを理解する。
- (3) 道具や工具を用い、創意工夫したものづくりに取り組む。

2 身に付けさせたい力

○伝統的な技術に学びながら新しいものを想像する力

3 教材の特質

大工道具を中心にした指導内容を提示している。各校では、地元の伝統的な地場産業などに即して、内容を適宜変更して指導を行うことが求められる。

4 事前指導、準備の工夫

道具を用いる伝統的な地場産業に関するフィールドワークを行うため、卒業生や生徒の保護者など、授業に協力していただける方々との調整を行っておく。


5 展開例

校外での見学、生徒の課題研究に発展させる。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
道具の使い方だけでなく、その基本的な仕組みや、それを用いて制作されるものにまで広く関心と興味をもっている。	道具を用いて制作されるものがどのような影響を与えたのかを想像し、道具の現代的な新しい使用方法を展開している。	道具や工具を用いてもものづくりを体験したり、地場産業の在り方を理解し、説明したりしている。	制作されたものを、その生産過程や用いられた道具の視点から理解している。
30%	25%	20%	25%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導の留意点◆
導入・知る (2時間)	<p>(1) 道具と道具を使ってつくられるものとの関係と、ものが生産されるまでの工程について考える。</p> <p>(2) 代表的な大工道具の用途や使い方を考える。</p> <p>・^{のみ}鑿 ・^{かん}鉋 ・^{ちよう}長斧 など</p> 	<p>○具体的な事例として漆器・陶器などを念頭において説明をする。</p> <p>○実物の大工道具を見せて触らせることを通じて、具体的にとらえられるようにする。</p> <p>○道具を用いてつくられた「もの」(板あるいは建築)の図版などを有効に用いる。</p> <p>◆外部施設の活用を工夫する。</p> <p>◆ビデオなどのビジュアルな教材をあわせて用いると効果的である。</p>
展開1・見学・体験する (4時間)	<p>(3) 生産の現場を見学する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材加工現場(建築現場)の見学 ・伝統的な道具の使用 <p>(4) 木材の材種による相違や木取りの意味などを学ぶ。</p> <p>(5) 基本的な加工方法を学習し、体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉋かけ ・ほぞ穴の加工 など 	<p>○原則として、集中した授業を学校外で実施するが、工具や指導者などの条件が整えば学内でも可能である。</p> <p>○保護者や卒業生を通じて、伝統工法に習熟した外部講師を依頼する。</p> <p>◆生徒の習熟度合いに応じて、具体的なテーマを与え続ける。</p>
展開2・制作する (4時間)	<p>(6) 継手・仕口について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割 ・使われている箇所 ・仕組み <p>(7) 継手を調べ、制作する。</p>	<p>○必要に応じて、外部講師を依頼する。</p> <p>○制作では、杉材などを用いて、鑿・鉋を使う。</p>

8 事後指導の工夫

- 道具に習熟した伝統工芸の職人などの実演会などを開催して、校内活動に広げる。

<単元21> 「生活に生き続ける江戸の文化」

指導内容との関連 (1) -②、(1) -③、(2) -⑤

カリキュラム単元例 <例8>

1 指導のねらい

- (1) 生活に生き続ける江戸の文化を理解するとともに、日本の文化は時代ごとにつくられてきた歴史を理解する。
- (2) 「洒落」や「粋」から日本人が楽しく新たな文化を創出してきたことに習い、自らが創意工夫して生み出すことを体験させる。



2 身に付けさせたい力

○身近な生活を創意工夫して、楽しくする力

3 教材の特質

- (1) アイディアを生み出すことを重視する教材である。
- (2) 実際につくった手作りかるたによるかるた大会、また、幼稚園や小学校との交流、介護施設との交流など生きた学習に発展させることができる。

4 事前指導の工夫

- ・昔からある日本の遊びについて生徒に調べさせたり、家庭や地域にある遊び道具等を集めたりしておく。
- ・生徒の関心や意欲をアンケート等で事前に調査しておく。

5 展開例

生徒の課題研究に発展させる。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
江戸の遊びや生き方に興味をもち、その活用法等を考えようとしている。	自分の生活や経験を基に、自ら新たなものを生み出す工夫に取り組んでいる。	友人に自分の考えたことや感じたことを説明している。	江戸の遊びに込められた、「洒落」や「粋」について理解している。
20%	30%	20%	30%

7 指導計画と指導のポイント

(1) 全体計画

① 学ぶ・調べる（2時間）

- ・歌舞伎、文楽、落語などについて
- ・江戸文化について

② 体験する（2時間）・・・本時

(2) 「千社札やポチ袋をつくる」

前時に学習したものを土台に、体験する。

段階	主な学習活動	指導のポイント○指導上の留意点◆
体験 (0.5時間)	(1) 千社札やポチ袋をつくるもととなる和紙についての理解と体験 (2) 制作に応用できそうな日本の伝統技法の体験 [例] ・くいさき（紙を継ぐ） ・組紐	○芸術科、美術や工芸の教師や校内で和紙づくりや組紐に興味のある教職員などと連携して指導する。 ◆基礎的な学習を重視する。
考えてつくる (1時間)	○千社札やポチ袋がつけられた江戸の遊びの心をもって、楽しく制作に取り組む。 ○自らの生活を楽しむようなアイデアを練り、形にする。 [例] ・携帯電話のストラップ型 ・シール型	○江戸の遊びに込められた、「洒落」や「粋」について理解しながら、ものづくりに取り組める雰囲気をつくる。 ◆作品よりも、アイデアや工夫を積極的に評価する。
鑑賞 (0.5時間)	○友人の作品や学級の仲間の作品のよさを感じ取る。	○日本の遊びから文化を創造的に工夫できる態度を学ばせる。

8 事後指導の工夫

- 「意匠」の法律について説明したり、成功例を紹介したりしながら、創造への工夫をこれからの社会で生かせるような取組とする。

<参考> 意匠法第2条

・意匠法第2条に規定される意匠、すなわち、物品（物品の部分を含む。）の形状、模様若しくは色彩又はこれらの結合であつて視覚を通じて美感を起こさせるものを保護の対象とします。したがって、物品とは一体不可分の関係にあり、また、物品の外観に現れないような構造的機能は保護の対象となりません。なお意匠の創作は、特許法における発明や実用新案法における考案と同じく抽象的なものですが、発明・考案が自然法則を利用した技術的思想の創作であり、特許法・実用新案法はその側面からの保護をしているのに対し、意匠法は、美観の面から創作を把握し、これを保護しようとする点で異なっています。

（特許庁ホームページ参照 <http://www.jpo.go.jp>）

＜単元 22＞ 武道に学ぶ

指導内容との関連 (1) -④
カリキュラム 単元例 <新>

1 指導のねらい

- (1) 日本の武道を生徒が身近に感じるとともに、国際的になってきた武道に込められた日本の伝統・文化について、武道の心と技などから見付け出す。
- (2) 自分の興味のある武道などについて調査する。さらに、その中から日本人が大切にしてきた伝統や文化について考える。

2 身に付けさせたい力

- 日本人の培ってきた精神性に気付く力
- 日本の武道に対する理解力

3 教材の特質

- (1) 柔道、剣道等をテーマに、日本人の心について学ぶ。
- (2) 現代生活との関連から、武道について考える。



4 事前指導の工夫

保健体育の教科書や資料から事前に学ぶとともに、地域の関連団体と連携し、生徒自身がより学習しやすい環境をつくって、楽しく日本の伝統・文化についての理解が図れるようにする。

5 展開例

- (1) 地域や関連団体の有識者から、実際に話を聞く機会をつくる。
- (2) 実際の試合のビデオを見ながら話を聞くなど、学習形態を工夫する。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
武道を通して、日本人の心や感性に気付いている。	武道について、自分の意見を持ち、調べている。	調べたり、研究したりしたことを、他者に伝えている。	武道について、現代生活と関連付けながら、みている。
30%	20%	25%	25%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導の留意点◆
導入 2時間	(1) 武道について、テーマを決めて学習する。	○本単元に含まれる内容を学んだり、そこから選択したりしながら、主体的に学べるよう工夫する。 ◆ビデオ等の視聴覚機器を効果的に使い、生徒に興味・関心をもたせる。
展開 2時間	(2) 武道を「みる」こと、「感じる」ことから、理解を深める。 [展開例] ①武道の中から、地域の実態や学校の特色に合ったテーマをもとに学習する。 ②名勝負のビデオや漫画など映像メディア表現から、武道について考える。 ③国際大会で活躍した選手の話から、武道の心について考える。 (3) 武道と現代生活の関連について調べてみる。	○実際の試合のビデオがあれば、準備しておく。 ◆生徒の率直な意見を重視する。 ○上記をもとに、適切な助言を行う。 ・プラスの効果とマイナスの反応 ○生徒の興味のある武道について、調べさせる。
まとめ 2時間	(4) 調べたこと、研究したこと、考えたことを発表する。	○生徒の意見や考え方を重視しながら、日本人の心や感性について話せるよう準備しておく。

8 事後指導の工夫

- 日本にある様々な武道について、生徒が課題を選択し研究し、発表できるよう発展する。
- さらに研究し、実際に体験しようとする生徒に対するガイダンス機能及びガイダンス体制を校内で確立しておく。

＜单元 23＞ 将棋に学ぶ

指導内容との関連 (1) -④

カリキュラム 单元例 <11>

1 指導のねらい

- (1) 「棋道」を通じて日本の伝統・文化を学び、また日本の歴史と将棋との関連を考える。
- (2) 駒や盤から、日本の伝統・文化と木のかかわりや、手作業で作られる日本の伝統的な工芸品などについて理解する。
- (3) 「礼に始まり礼に終わる」将棋の古式習いを学び、棋道の礼節を日常でも実践する。

2 身に付けさせたい力

- 日本の伝統・文化で培われてきた礼節
- 本物を「見る・知る・触れる」ことによる興味や向上心

3 教材の特質

- (1) 将棋盤と駒から、木と日本の伝統・文化とのかかわりを学ぶ。
- (2) 将棋の対局を始めるときと終わるとき「所作」から、対局に望む姿勢や、駒などの片付け方の手順について学習することができる。
- (3) 将棋に類する外国のゲームと比較しながら、駒の名称や形の由来など、歴史的観点もから文化を学ぶことができる。



4 事前指導の工夫

調べる内容により深みが出るように、多くの参考資料をピックアップしておく。

5 展開例

- (1) 本物を見る、知るために、棋士や専門分野の方との交流機会をつくる。
- (2) ビデオなど、将棋の資料館にある資料を使って学習する。
- (3) 地域の指導者を登用して、いろいろな角度の授業形態を工夫する。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
礼儀作法に興味・関心をもち、進んで将棋について学ぼうとしている。	基本的なルールを理解して実践的な工夫を探ったり、将棋の文化的な意味を考えたりしている。	将棋の歴史、文化的な役割をまとめて発表したり、棋の対局を通して、棋士や友人と交流したりしている。	棋譜を読んだり、将棋の対局の解説を理解している。
20%	20%	40%	20%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導の留意点◆
導入 (6時間)	(1) 棋道の歴史と文化を学ぶ。 ・将棋の歴史 ・木の文化について ・素材 (2) 将棋における礼節の所作を覚える。	◆学校や地域の図書館を大いに利用してもらい、活用を促す。 ○分かりやすい説明や資料づくりを心掛ける。 ○生徒が自発的に対局開始や終了のあいさつ、後片付けができるようにする。
展開 (2時間)	(3) 課題を設定し、将棋について調べる。 [例]・将棋の歴史 ・諸外国の他のゲームとの違い ・盤と駒や石について (4) 調べたことをまとめる。	○グループ学習にする。 ◆課題の設定に当たっては、生徒の興味や関心を重視する。 ○指導に当たっては、保護者や地域の人材の活用をする。 ○囲碁・将棋関係者のアドバイスや専門家の協力を得られるような体制を考える。
まとめ (2時間)	(5) 調べたことを発表して、意見交換する。	○個に応じた、具体的なアドバイスを行う。

・学校行事、特別活動の時間も活用し、生徒が普段関心をもっているテーマについて棋士に話をしてもらい機会を設ける。例えば「夢に向かって」というテーマで、棋士になろうとした理由や、対局で負けたときにはどのように立ち上がったのか、今後棋士としてどのような活躍をしたいかなどを棋士に話してもらい。それによって、生徒の将棋についての理解を広げ、人間的な成長を促すことができる。

・本単元の授業を始めるときに思ったこと、最後に授業を受けたときとで自分に起きた変化について考える。

8 事後指導の工夫

○ホームルーム活動や放課後などで、盤を挟んで対局することを、「棋の心」「棋は対話なり」をより理解してもらい、様々な方面で「心」の活用を促す。

<単元 24> 囲碁に学ぶ

指導内容との関連 (1) -④

カリキュラム 単元例 <新>

1 指導のねらい

- (1) 日本やアジアの国々との関係や、文学、美術とのかかわりから「囲碁」の歴史を学ぶ。
- (2) 日本の伝統・文化である「囲碁」について、体験を通して学ぶ。
- (3) 囲碁の礼法や対局マナー、国際化等から、国際化する日本の文化の在り方を学ぶ。

2 身に付けさせたい力

- 囲碁に込められている世界観や礼法やマナーから日本文化に気付く力
- 対局等を通して生まれる、自己と他者との心情や心の動きに気付く力

3 教材の特質

- (1) 囲碁が、文学や美術と古くからかかわってきたことを古典作品から理解できる。
- (2) アジアや諸外国の囲碁や囲碁を取り巻く環境と比較しながら、日本人の国民性や風土について学習することができる。

4 事前指導の工夫

囲碁を体験的に取り入れるために、碁石や碁盤、指導者等を地域と連携して準備しておくようにする。

5 展開例

- (1) 本物を見たり知ったりするために、棋士や専門分野の方との交流機会をつくり、日本の伝統・文化を楽しく学べるようにする。
- (2) ビデオや教本など、囲碁の資料を使って学習する。
- (3) 地域の指導者を登用して、いろいろな角度からの授業形態を工夫する。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造的な工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
囲碁に興味・関心をもち、積極的に友人と対局しようとしている。	囲碁の文化や歴史の中に日本人の心の在り方を見付け、それを生活に役立てている。	囲碁を通して、諸外国との交流や地域との交流活動に取り組んでいる。	囲碁を通して、様々な日本の伝統・文化のよさを見いだしている。
25%	25%	25%	25%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導上の留意点◆
導入 (1時間)	(1) 囲碁の歴史と文化を学ぶ。 ・文学や美術と囲碁	◆学校や地域の図書館や施設を利用して、囲碁について調べさせる。
展開 (3時間)	(2) 対局する。 (3) 囲碁の礼法やマナーについて学ぶ。	○生徒が対局するとともに、あいさつやマナーを体験を通して学ばせる。 ○地域の囲碁関連の団体等と連携して、楽しく囲碁が学べる環境をつくる。
まとめ (2時間)	(4) 課題をもち、研究したことを発表する。	◆個に応じた、具体的なアドバイスを心掛ける。

- ・本単元の授業を始めるときに思ったこと、最後に授業を受けたときとで自分に起きた変化について考える。

8 事後指導の工夫

- ホームルーム活動や放課後などで、盤を挟んで対局するなど、生徒の主体的な活動に発展する。



〔新たな文化の単元〕

〈単元 25〉 事件・情報とメディア

指導内容との関連 (4)－②
カリキュラム 単元例 <23>

1 指導のねらい

- (1) 各時代のメディアにおいて、話題となった事件がどのように扱われているかを調べ、日本人の事件報道への意識の変化を知る。
- (2) 報道メディアと、小説や芝居など文芸性の高いものとを比較し、情報の扱い方の違いについて考察する。
- (3) フィールドワークを通して情報をめぐる歴史的な流れ、メディアの総体的な在り方について理解を深める。

2 身に付けさせたい力

- 一つのものごとを多角的にとらえる力
- 自分の行動・発想を相対化する力
- 調べた素材や発見した課題を、論理的にまとめ説明する力

3 教材の特質

- (1) 〈事実〉〈真実〉という抽象的なレベルの問題に、具体的な素材からアプローチする。
- (2) 多様なデータを収集・分析する能力を身に付けることができる。

4 事前指導、準備の工夫

- 生徒にメディアや情報についての認識を身に付けさせておく。
- 資料を体系的に扱い、データを収集する方法を確認しておく。

5 展開例

生徒の課題研究に発展させる。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
メディアとそこで扱われている事件・情報に興味をもち、その関係を進んで調べようとしている。	メディアによる事件・情報の伝え方の特徴を理解し、読み取り方を考え工夫している。	メディアによる事件・情報の伝え方の功罪について指摘し、自分なりの伝え方を工夫して発表している。	
30%	30%	40%	

※本単元では3観点を重点的に評価するが、年間を通しては4観点をバランスよく評価することが大切である。

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導上の留意点◆
調べる (4時間)	<p>(1) メディアの歴史的な経緯と情報について学ぶ。</p> <p>①メディアの歴史的な経緯を追いながら盛り込まれている情報を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瓦版 ・新聞 ・雑誌・ラジオ ・テレビ ・インターネットなど <p>②情報の描き方の違いを知る。</p> <p>(2) 過去と現在の日本人の情報に対する姿勢を比較する。</p>	<p>◆メディア・情報についての概念整理をしておく。</p> <p>○グループ学習とする。</p> <p>○多くのメディアに接することができるように資料を準備する。</p> <p>◆素材の収集や整理方法について、分かりやすく説明する。</p> <p>◆生徒たちの理解しやすい素材がよいが、興味本位にならないように留意する。</p> <p>○同じ種類のメディアを比較させ、発信者の姿勢によって、情報の描き方の違いあることに気付かせる。</p>
話し合い工夫する (2時間)	<p>(3) 話し合いを行う。</p> <p>①調べたデータをもとに、事件や情報の伝達について議論する。</p> <p>②メディアと、文芸・演劇作品の情報の伝え方の相違点・共通点などについて話し合う。</p> <p>(4) 情報を伝える。</p> <p>①特定の事件の報道を取り上げ、その功罪について議論する。</p> <p>②工夫して情報を伝える発表をする。自分たちの伝え方を発表する。</p>	<p>○「事実」を伝えていると考えられるメディア、「虚構」を伝えていると考えられる文芸・演劇作品を取り上げる。</p> <p>◆事実・真実という言葉、常に意識しながら使い分けて発言するように注意を促す。</p> <p>◆議論のきっかけとなるような資料を適宜提供する。</p> <p>○メディアが「事件をつくる」可能性についても議論させる。</p> <p>○扱う事件報道は生徒自らが選択するようにする。</p> <p>◆対象とする素材について、興味本位になり過ぎないように留意する。</p>
考える (2時間)	<p>(5) フィールドワークをし、考察する。</p> <p>①メディア・情報を取り上げた施設を見学する。</p> <p>[例] 日本新聞博物館(横浜) など</p> <p>②報道を発信する側の人たちのインタビュー、講演会を企画する。</p> <p>③今を生きる生徒の視点から、社会と情報・メディアと自分たちの関係性をとらえ直し、意見交換を行う。</p>	<p>◆見学の際のマナーを指導しておく。</p> <p>◆インタビューや話を聞く際のマナーについて確認するとともに、質問内容などについても事前に明確にしておく。</p> <p>◆発信する側の視点も意識しながら、情報・メディアを総合的にとらえる姿勢をもたせる。</p> <p>○生徒のイメージや創造性が触発されるような指導の展開を工夫する。</p>

8 事後指導の工夫

○日本人の思考や行動について、歴史的にとらえることができる展開を考える。

＜単元 26＞ 現代の芸術にみる日本の伝統・文化

指導内容との関連 (4)－②
カリキュラム 単元例 <19>

1 指導のねらい

- (1) 現代の芸術・文化の中に、日本の伝統的精神や美意識が息づいていることを理解するとともに、日本の伝統・文化を身近に親しむ。
- (2) 生徒が主体的に日本の伝統・文化について主体的に調査し、そのよさや特徴について自分なりの方法で表現する。
- (3) 伝統・文化は決して古いものでなく、生徒自身がつくりあげていくものであることを気付かせる。

2 身に付けさせたい力

- 日本の伝統・文化に誇りをもち、他者に説明できる力
- 創造や伝承への意欲と行動力

3 教材の特質

現代の芸術は多岐にわたっている。本単元ではその一部を取り上げているが、ジャンルを限定することなく、資料の一つとして扱うことができる。コラムは「新しくつくること」について取り上げており、より現代性をもったものとなっている。

4 事前指導、準備の工夫

生徒を対象とした事前指導の必要は特にないが、指導教員自身が、興味のある現代の芸術を取り上げ紹介することが有効である。

5 展開例

生徒の課題研究に発展させる。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
現代の芸術・文化について興味・関心をもっている。	国際社会で生かせる伝統・文化について積極的に考え、提案している。	国際的な視点から日本の伝統・文化のよさや特徴について発表している。	現代の芸術・文化の中に、日本の伝統的精神や美意識を見いだしている。
15%	40%	30%	15%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導の留意点◆
知る・調べる (2時間)	<p>(1) 現代の芸術と日本の伝統・文化のかわりを知る。</p> <p>(2) 現代の芸術・文化について調べ、それらの作品について話し合う。</p>	<p>○幅の広い作品等を取り扱い、国際的な実際の評価について説明する。</p> <p>○教師が実際に一例を取り上げ、プレゼンテーションを行う。</p> <p>○インターネット、図書などの資料をもとに調査させる。</p> <p>◆ジャンルを限定することなく、幅広く扱う。</p>
発表・交流する (2時間)	<p>(3) ティーパーティーを開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の芸術・文化について調べたことを報告(プレゼンテーション)し合い、交流を行う。 <p>①外国の人に日本について説明をする。</p> <p>②英語等の諸外国の言語での発表、図表やテキスト等の工夫を考える。</p> <p>③生徒同士が積極的に質疑応答を行う。</p>	<p>○グループエンカウンターの手法を参考にして、場の設定を工夫する。</p> <p>○多くの意見交換を行わせる。</p>

8 事後指導の工夫

- 地域の専門家や博物館・美術館等の学芸員と交流を図る。
- 美術の授業と連携して、日本の伝統・文化を生かした現代芸術を学ぶ。
 - ・枯山水とインスタレーション
 - ・ミラノやパリなどのファッションと、日本の文様や表現との関連性
- 特別活動や総合的な学習の時間と連携する。
- 家庭科や美術科と連携し、和食やお茶などを取り入れた授業を工夫する。
- 地域によっては、諸外国との交流を実施する。
- 地域で伝統・文化を引き継ぎながら、新しい作品を生みだしている職人の方々などを取材する。



※「インスタレーション」……与えられた場所に様々な物体等を配して、空間全体を作品とする表現形態のこと。

<単元27> 折り鶴を折る ―野口宇宙飛行士による「宇宙鶴」プロジェクト―

指導内容との関連 (4)－②
カリキュラム 単元例 <15>

1 指導のねらい

- (1) 折り鶴を実際に折ることで、折り紙体験をする。またその由来や、現代の役割について理解する。
- (2) 「宇宙鶴」プロジェクトから、未来に期待されている日本の伝統・文化との融合について考える。

2 身に付けさせたい力

○将来に向けて、日本の伝統や文化を生かそうとする力

3 教材の特質

野口宇宙飛行士の「宇宙鶴」プロジェクトについて知り、伝統・文化のもつ未来への役割や可能性について考えることができる。

4 事前指導・準備の工夫

生徒を対象にした事前指導は特に必要ない。

5 展開例

「折り紙」に興味・関心をもった生徒には様々な折り方を指導し、また壮大な宇宙計画に興味・関心を抱いた生徒には、宇宙における伝統・文化プロジェクトなどを計画させ、「宇宙鶴」から多様な展開のできる工夫を行う。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
伝統・文化の可能性について興味・関心をもっている。	「宇宙鶴」に代表されるような伝統・文化の将来への可能性について、積極的に創造したり工夫したりしている。	「折り鶴」の色・形・素材を工夫し、互いの折り方を教え合ったりしている。	伝統・文化がもたらす役割に気づき、日本独特の美を味わったりしている。
40%	15%	15%	30%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導の留意点◆
知る・調べる (2時間)	<p>(1) 「折り鶴」の歴史、現在の用途について学ぶ。</p> <p>①「折り鶴」が果たしてきた役割について調べ、発表する。</p> <p>②現代における「折り鶴」の意味や役割、用途について知る。</p>	<p>○鶴は、日本で長寿や幸福のシンボルとされてきたこと、また、折り鶴は現在では平和活動に取り入れられていることなどについて取り上げる。</p> <p>○教師自身の「折り鶴」に関する体験談も適宜盛り込む。</p>
体験する・考える (2時間)	<p>(2) 折り鶴を折る。</p> <p>(3) 野口宇宙飛行士の「宇宙鶴」プロジェクトについて知り、その意義について学ぶ。</p>	<p>○大きなもの、小さなもの、色、形、素材についても工夫をする。</p> <p>○生徒同士が「折り鶴」の折り方を教え合うなど、教員の配慮と工夫が必要である。</p> <p>○宇宙で「折り鶴」を無重力空間で折り、浮遊させている映像を見ることで、よりその意味や可能性について理解を深める。</p>

8 事後指導の工夫

- 日本の伝統・文化のよさを、幼児や外国人に伝えるプロジェクトやワークショップなどを企画・立案し、実現できるような環境を整える。



＜単元例 28＞ 和からジャパンプランドの創出

指導内容との関連 (3)－③、(4)－②

カリキュラム 単元例 <17>

1 指導のねらい

(1) 基礎となる学習

「和」のもつ言葉を検索し、その意味について学び合う。

(2) 発展的・応用的な学習

- ① 「唐」、「洋」などを「和」に対する言葉からイメージし、その文化のもつ意味を探る。和魂洋才などの用語を上げて、その文字の設立の時期と意義について考察する。
- ② 次の世代に「和」としてとらえられる日本文化を探し出し、海外に発信できる総合的な「ジャパンプランド」づくりをする。

2 身に付けさせたい力

- 考えたこと創造したことを形にする喜びの理解力
- 新しい日本の文化を創造し、それらを世界に向けて発信できる力

3 教材の特質

日本人が生み出してきた文化に対する誇りと、新たな文化となって未来へと受け継がれていくであろうものに関する夢をもつことができる。

4 事前指導、準備の工夫

年間を通して、日本の伝統・文化を学び、その成果を生かす単元である。指導計画を十分に考えて、適切な時期に行うことが必要である。

5 展開例

インターシップや職業体験等と関連をもたせ、社会の一員として有意義な学習となるように工夫する。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
「和」に興味・関心をもち、課題に積極的に取り組んでいる。	文化を相対的にとらえ、新しい「和」の文化の創造を工夫している。	自分で調べまとめたことを、言葉やデザインなどを用いて発表している。	「和」のもつ微妙なニュアンスを感じ取ったり、その本質的な意味をとらえたりしている。
20%	40%	20%	20%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導の留意点◆
導入 (2時間)	(1) 「和」という言葉から類推できることを話し合う。 (2) 「和」の文化について話し合う。 ・創立時期 ・意義	○辞書や、参考資料などを自由に使うことができるようにする。 ◆人権上に問題のある言葉には、十分留意する。
展開 (2時間)	(3) 洋、唐などの文字に現れた文化と比較し、和の文化の本質を明らかにする。	○文化全般を歴史的観点から考えるために複数の教科の教員が指導に当たる。 ◆グループが協力し合って、発表できる、環境を準備する。 ・板書の工夫 ・模造紙を使った発表 ・パソコンを活用したプレゼンテーション など
まとめ (2時間)	(4) 新しい日本文化を創出・発信する「ジャパンブランド」について話し合う。 (5) 新たな「和」の文化を表現する。 ・文章 ・レンダリング など	○各グループに、様々な発表形式を工夫させるとともに、それぞれのよさについて、適切な指導を行う。 ○日本文化の再生を担う人材であることを意識させる。

8 事後指導の工夫

○資料を蓄積し、各学校独自の取組にしたり、伝統的な学習活動にしたりできるような校内環境を整える。



＜単元例 29＞ 日本的な感性を味わおう ― 手作り和楽器に挑戦！―

指導内容との関連 (3)－①、(3)－③

カリキュラム 単元例 <28>

1 指導のねらい

- (1) 様々な和楽器に親しみ、響きの特性を感じ取るとともに、楽器の歴史的・文化的な意味や背景を知る。
- (2) 形態やデザインに込められた日本的な感性を感じ取る。
- (3) 自分たちで手作り和楽器を制作し、それらを用いて簡単なアンサンブルを楽しむ。

2 身に付けさせたい力

- 音や楽器の特性を知る上で必要となる観察力
- 新しい響きや楽器を考案しようとする独創力
- 友人と協力し合って調べ学習や創作・演奏活動のできる協調性

3 教材の特質

- (1) 音響学的方法を取り入れて、音に対して新たなアプローチができる。
- (2) 調べ学習や手作り楽器の制作を通して、実践的な知識を獲得させることができる。

4 事前指導、準備の工夫

材料・用具については、生徒が主体的に集められるものや地域の資源等を活用する。

5 展開例

生徒の課題研究と創作・演奏活動に発展させる。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
和楽器に興味をもち、意欲的に歴史を調べたり、制作・表現活動に取り組んだりしている。	素材やデザインを工夫した和楽器づくりに取り組んでいる。	自分たちのデザインした和楽器を用いて、自由な発想を生かした表現を発表している。	和楽器の歴史的な意味を理解するとともに、音色や響きの特徴を感じ取り、日本的な感性を味わっている。
15%	40%	30%	15%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導の留意点◆
導入・調べる (2時間)	(1) 和楽器の音楽を聴いて、それぞれの楽器のよさや特性を感じ取る。 (2) 楽器の歴史、文化を調べる。 ①興味ある楽器を選択する。 ②伝統楽器に施された発音の原理、形、奏法の工夫を見付ける。 (3) 調べたこと、理解したことを発表する。 (4) 和楽器に込められた日本の感性について考える。	○楽器や映像・写真資料などを準備する。 ○地理歴史と関連付ける。 ◆必要に応じて、地図や年表を書き込んだワークシートを作成する。 ○ゲストティーチャーを招き、話を聞くなど活用を工夫する。 ○和楽器に込められた日本の感性について理解させる。
展開・つくって表現する (4時間)	(5) 篠笛など手作りの和楽器づくりに取り組む。 (6) 楽器の特性を生かした表現方法を探る。 (7) 自由な発想を生かしたアンサンブルをつくって表現する。 (8) アンサンブルを発表し、鑑賞し合う。	○素材の選択やデザインは、生徒一人一人の発想を尊重する。 ◆安全面に配慮する。 ○グループ学習にする。生徒の発想を生かすグルーピングを心掛ける。 ○美術・工芸と音楽とが緊密に連携する点に注目させる。 ○日本的な感性を実感できるような発表、鑑賞になるように工夫する。 ◆評価シートを作成し、配布する。

8 事後指導の工夫

○和楽器の制作現場を訪れ、職人の方々の感性や技にふれる。



＜単元 30＞ ダンスと和楽器による総合的表現

指導内容との関連 (3)－③

カリキュラム <27>

1 指導のねらい

- (1) 「伝統」と「現代」をダンスと和楽器で総合的に表現する。
- (2) 動き・ダンス、音楽、衣装などに「和のモチーフ」を盛り込む。
- (3) 自分たちでつくった表現に演出を工夫して発表する。

2 身に付けさせたい力

- イメージを創造的に表現する力
- 伝統のよさを感じ取る力
- かかわりを深めていく力

3 教材の特質

- (1) 動き、ダンス、音楽、衣装などの要素を総合的に判断し、体験をワークシートにまとめることで、自分たちにとって新しいものをつくる学習活動へ発展させることができる。
- (2) 和楽器を取り入れることで、生徒に日本の伝統・文化をより身近に感じさせることができる。

4 事前指導、準備の工夫

- 事前に学習内容を示し、生徒がその場の雰囲気や環境に合わせて豊かに発想できるように準備しておく。
- 和室を使ってみたり、地域の神社等で活動したり、場の設定を工夫する。

5 展開例

- (1) 協力して自分たちの表現をつくって発表させる。
- (2) 映像に残し、学習後に鑑賞できる資料に工夫する。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
自分たちの表現をつくって発表することに意欲的に取り組んでいる。	伝統的表現のよさを感じ取り、自分たちの表現に生かす工夫をしている。	自分たちで創意工夫して総合的表現をつくって発表している。	伝統と現代、音楽とダンスがコラボレーションする魅力を味わっている。
10%	40%	30%	20%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導の留意点◆
導入 (2時間)	(1) 様々な和楽器アンサンブルを知る。 ・興味をもった表現の鑑賞 ・調査	○様々なメディアを使って、できるだけ多様な表現を提供する。
展開 (8時間)	(2) 和楽器の基本的な奏法を学ぶ。 (3) ダンス(振り付け)をイメージしながら和楽器アンサンブルを聴く。 ①「和のモチーフ」の発想から鑑賞曲を選択する。 ②振り付けを考える。 (4) 総合的表現づくりに取り組む。 ①振り付けに適した曲想や様式を決める。 ②曲の構成や時間経過の分かる楽譜(図形楽譜等でもよい)を工夫する。 ③振り付けを具体化する。 ④衣装のデザインなどにも、「和のモチーフ」が反映できるよう工夫する。 (5) 音楽とダンスをグループごとに練習する。	◆楽器の準備やゲストティーチャーの活用を工夫する。 ○イメージしやすい楽曲を選択する。 ○様々な奏法の違いを実感として体験的に理解させる。 ○生徒のイメージや発想を生かす指導を工夫する。 ○構成として静と動、「序・破・急」などのヒントを与える。 ○表現の練り上げと演出を工夫させる。 ◆聴衆の視点から、視覚的な表現効果も考えるよう指導する。 ◆スケジュール調整や場の確保に留意する。
まとめ (2時間)	(6) 総合的な表現の発表する。 (7) 発表を評価し振り返る。 ・聴衆によるアンケートや感想を分析したりして、活動全体を振り返る。	○生徒による自己評価や相互評価、さらには他者評価なども取り入れ、評価の工夫を図る。

8 事後指導の工夫

- 学習活動を各自がしっかりと振り返り、レポートを提出する。
- 地域との交流活動へ発展させる。

＜単元 31＞ ジャパンパーティーの企画演出

指導内容との関連 (1)－①、(3)－②

カリキュラム 単元例 <5>

1 指導のねらい

- (1) 日本のどのような内容を伝え、外国の何について学ぶのかについて議論を行う。
- (2) 具体的なパーティーを考え、それに必要な内容を各自で掘り下げて研究し、それぞれの考えを尊重しながら内容の検討ができる。
- (3) パーティー主催者側の立場に立って、様々な実施上の課題について協議を行い、実施の方法を探る。
- (4) 実際に運営できるようなプログラムをつくり、発表する。

2 身に付けさせたい力

- 日本についての知識を他者に伝える力
- 他者の考えを聞き、認め、伝え合う力
- 自ら計画を立て、実行する力

3 教材の特質

- (1) 「日本の伝統・文化」科目の総仕上げとして位置付けている。
- (2) 日本の伝統・文化を世界に発信したり、他者と共有したりするための総合的な単元として、目標をもって、企画・立案できる。



4 事前指導、準備の工夫

「日本の伝統・文化」の総仕上げとして、これまでの学習を生かせるような準備をする。

5 展開例

生徒会活動、国際交流などに発展させる。

6 評価規準

関心・意欲・態度	創造への工夫	発表・交流の能力	鑑賞の能力
単元の趣旨を理解し、積極的に活動に取り組んでいる。	パーティー形式で発表することの意義を認識し、創造的な内容の提案をしている。	日本の伝統・文化についてわかりやすく伝えるとともに、外国の伝統・文化について積極的に質問し、交流している。	日本及び外国の伝統・文化のよさを味わっている。
20%	30%	40%	10%

7 指導計画と指導のポイント

段階	主な学習活動	指導のポイント○、指導の留意点◆
話し合う (2時間)	(1) パーティーで紹介する日本の伝統・文化を話し合う。 (2) 話し合いの結果をまとめる。	○グループ学習とする。 ○既習の資料を基に、日本の伝統・文化にかかわるキーワードを並べさせ、何どう伝えるのかについて考えさせる。 ◆諸外国のパーティーのマナー等について、説明を十分にする。
企画する (2時間)	(3) パーティーの計画を立てる。 (4) 計画案をまとめる。 ・対象、内容、規模、予算、時間配分、用意する物品、説明及び質問の内容など。 (5) パーティーへの招待状を英語でつくる。	○伝統・文化を幅広く取り扱うため、複数の教員がチーム・ティーチングで指導に当たる。 ○計画は多角的、具体的にまとめるようにする。 ◆企画内容について、適切に指導する。
発展する (2時間)	(6) 日本の伝統・文化に関する説明をする。 (7) 外国人から質問を募り、回答する。 (8) 上記(5)で説明した内容は、外国ではどのようなになっているか、質問する。 (9) 外国人の回答から、さらに深く知りたいことを質問する。 (10) 日本と外国の伝統・文化を比較し、気付いたことを発表し合う。	○自信をもって日本について語れるように指導する。 ○質問を受け、答えることで日本のよさをより一層深く理解できるようにする。 ○他のグループの内容を聞くことにより、多角的に日本の伝統・文化の研究できるように工夫する。

8 事後指導の工夫

- 将来の進路目標や、職業観・勤労観を生徒一人一人が実感し、社会の一員として、生かせるような活動に発展する。

日本の伝統・文化理解教育推進会議委員名簿

澄川 喜一	新制作協会会員、日本芸術院会員 東京芸術大学名誉教授 島根県立芸術文化センター長 横浜市芸術文化振興財団理事長	平成17年4月1日～
高浦 勝義	明星大学教授	平成17年4月1日～
中村 哲	兵庫教育大学教授	平成17年4月1日～
佐野 靖	東京芸術大学音楽学部教授	平成17年4月1日～
竹内 誠	江戸東京博物館館長	平成17年4月1日～
恵 小百合	江戸川大学教授	平成17年4月1日～
近藤 精一	東京都教育庁理事	平成17年4月1日～
井出 隆安	東京都教育庁指導部長	平成17年4月1日～平成18年3月31日
岩佐 哲男	東京都教育庁指導部長	平成18年4月1日～

事務局名簿

岩佐 哲男	東京都教育庁指導部指導企画課長	平成17年4月1日～平成18年3月31日
宮川 保之	東京都教育庁参事（指導部指導企画課長事務取扱）	平成18年4月1日～
宮本 久也	東京都教育庁指導部主任指導主事	平成17年4月1日～平成18年3月31日
伊東 哲	東京都教育庁指導部主任指導主事	平成18年4月1日～
儘田 文雄	東京都教育庁指導部指導企画課統括指導主事	平成17年4月1日～
池谷 芳彦	東京都教育庁指導部指導企画課指導主事	平成17年4月1日～平成18年3月31日
平井 邦明	東京都教育庁指導部指導企画課指導主事	平成18年4月1日～

東京都立学校設定教科・科目

「日本の伝統・文化」指導書

東京都教育委員会印刷物登録 平成18年度 第191号

平成19年1月18日

発行 東京都教育庁指導部指導企画課

所在地 東京都新宿区西新宿2-8-1

電話 03-5320-6836

研究委託先 東京芸術大学

カリキュラム開発共同研究者（五十音順）

青柳 路子	東京芸術大学美術学部教育研究助手	塚原 康子	東京芸術大学音楽学部助教授
佐野 靖	東京芸術大学音楽学部教授	成清 美朝	東京芸術大学美術学部教育研究助手
杉本 和寛	東京芸術大学音楽学部助教授	西岡 龍彦	東京芸術大学音楽学部教授
杉本 昌裕	東京芸術大学美術学部非常勤講師	本郷 寛	東京芸術大学美術学部教授
(編集主査)	跡見学園女子大学文学部人文学科助教授	三田村有純	東京芸術大学美術学部教授
平 佳史	東京芸術大学美術学部教育研究助手	光井 渉	東京芸術大学美術学部助教授
(表紙)		山下 薫子	東京芸術大学音楽学部助教授

表紙：歌川広重「名所江戸百景 猿わか町よるの景」